

令和4年度

ヨコハマ市民まち普請事業

1次コンテスト 整備提案集

日時：令和4年7月9日(土) 10:00~17:30



視聴は
こちらから



YouTubeチャンネル「ヨコハマ市民まち普請事業」からライブ配信

事務局 横浜市都市整備局 地域まちづくり課
横浜市住宅供給公社
認定 NPO 法人 市民セクターよこはま



令和4年度 1次コンテストプログラム

☆ 10時00分～10時20分

- 開会
- 審査員の紹介
- コンテストの進行説明

☆ 10時20分～11時50分

- 整備提案の発表等（1グループあたり6分）

☆ 11時50分～12時30分

- 審査員による情報収集タイムに向けたポイント整理

☆ 12時30分～13時15分

- 情報収集タイム

☆ 13時15分～14時35分

- 休憩（審査員間で情報共有）

☆ 14時35分～17時10分（YouTube配信終了）

- 審査方法の説明
- 公開議論・質疑
- 公開投票及び結果発表
- 講評

☆ 17時10分～17時30分

- 提案グループへの事務連絡、アンケート回答
- 交流タイム

☆ 17時30分

- 閉会

2次コンテスト対象提案の選考方法

1 投票方法

- ・ 提案ごとに「2票」「1票」「0票」の3段階で評価します。
- ・ 2次コンテストの対象として「特に推薦する」場合には、2票を投票します。
- ・ 2次コンテストの対象として「推薦する」場合には、1票を投票します。
- ・ 「今後の取組に期待したい」場合には、投票しません。

2 選考方法

- ・ 過半数の審査員（4人以上）から得票し、かつ、得票数の上位6件を2次コンテストの対象提案として選考します。
- ・ 得票数が同点の場合は、投票した委員の多い提案が上位となります。

7件以上が選考された場合、次に進みます。

3 決選投票の方法

- ・ 2次コンテストの対象として「推薦する」提案に1票を投票します。
ただし、審査員の持ち票は、「6 - (選考済み提案数)」とします。
- ・ 得票数が上位の提案を2次コンテストの対象提案として選考します。
- ・ 得票数が一部同数となり、2次コンテストの対象候補が6件とならなかった場合は、再決選投票を行います。

4 再決選投票の方法

- ・ それぞれ推薦する「1提案のみ」に1票を挙手で投票を行います。
- ・ 選考数は、「6 - (決定済みの提案数)」とし、得票数の多い提案から2次コンテスト対象提案とします。
- ・ 得票数が一部同数となり、2次コンテストの対象候補が6件とならなかった場合は、再々決選投票を行います。
- ・ 再々決選投票は再決選投票と同じ方法で実施します。

■ヨコハマ市民まち普請事業とは

「ヨコハマ市民まち普請事業」では、市民のみなさんが主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設（ハード）整備を伴うまちづくりに対して横浜市が支援・助成を行うことで、地域に合ったまちづくりが実現することを目指しています。

市民のみなさんによるアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、整備への労力提供や整備後の施設の維持管理、活用・運営などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広まることで、横浜の魅力を一層向上させていくことを目的としています。

※地域まちづくり・・・身近な地域の魅力づくりや課題解決に向けた取組のことです。

※まち普請・・・ 「普請（ふしん）」は「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足度を高めることにつながっていきます。

「まち普請」には、市民のみなさんに身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

<支援内容>

● 1次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 30万円を限度に活動助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 活動助成金の対象は、主にまちづくりコーディネーター（まちづくりの専門家）等など技術面での協力者への謝金や用紙等事務用品費、印刷費等です。
- 提案内容の整理等をアドバイスしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。
- 2次コンテストに向けて提案の実現性を高めるため、提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課職員が支援します。

● 2次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 50万～500万円を限度に整備助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 対象経費は、設計費、工事費、工事監理費、活動経費です。
- 整備内容の整理や関係機関との協議・調整などを、整備が完了するまで地域まちづくり課職員が支援します。

ヨコハマ市民まち普請事業 令和4年度スケジュール

整備提案の募集 R4年4月1日(金)～R4年5月31日(火)



1次コンテスト R4年7月9日(土)

本日!!



2次コンテスト対象提案の決定

現地見学会(令和3年度整備箇所) R4年8月26日(金)



2次コンテスト対象提案 活動懇談会 R4年9月18日(日)



2次コンテスト対象提案現地視察 R4年10月29日(土)



2次コンテスト R5年1月29日(日)

整備対象提案の決定!

【審査員名簿】

(ヨコハマ市民まち普請事業部会 委員名簿)

	氏 名	現 職
審査員長 (部会長)	すぎさき かずひさ 杉崎 和久	法政大学法学部教授 (都市計画、まちづくり)
審査員 (部会委員)	あさひな ゆり 朝比奈 ゆり	東京ボランティア・市民活動支援センター専門員 (市民活動支援、みどり環境)
	いいお ともこ 飯尾 友子	本牧山頂公園和田山地区愛護会会長 (まちづくり、市民活動)
	うえまつ まみこ 植松 満美子	市民委員 (公募)
	かとう こうすけ 加藤 功 甫	市民委員 (公募)
	かわはら すすむ 川原 晋	東京都立大学都市環境学部教授 (市民事業、観光まちづくり、都市デザイン)
	ごとう ちかこ 後藤 智 香子	東京大学先端科学技術研究センター特任講師 (まちづくり、住環境、こども環境)
	まつむら まさはる 松村 正治	NPO 法人よこはま里山研究所 NORA 理事長 (市民協働、環境社会学)

(五十音順、敬称略)



●杉崎 和久（すぎさき かずひさ）
法政大学法学部／大学院公共政策研究科教授

東京理科大学工学部建築学科、同大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学。（財）練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター専門研究員、（財）京都市景観・まちづくりセンターまちづくりコーディネーターを経て、現職。

学生のときから、商店街のまちづくりのお手伝いをしたり、まちづくりNPOに参加していました。このときには、まち普請事業と同じような公募型助成金の申請書を書くこともありました（勝率低かったですが）。

大学院を出てからは、東京都練馬区や京都市でまちづくり活動を応援する仕事をし、その中で公募型助成金の事務局として、制度設計や運営、応募される団体からの相談を受けていました。

現在でも、まち普請事業をはじめとして、市民のみなさんの思いが形になっていく、その過程でご縁が広がっていく取組に関心を持ち、お手伝いをしています。



●朝比奈 ゆり（あさひな ゆり）
東京ボランティア・市民活動支援センター専門員

私のまちづくりとの関わりは公園づくりからです。地域の方が自分の居場所と思えるような公園をつくろうと設計者として計画段階から地域の人たちと一緒に考えたり、手作り工事に汗を流す機会を大事にしてきました。その経験から、地域に住んでいるからこそその問題意識や夢を持った

人たちがまちづくりに参加することの可能性を実感し、その後は世田谷区のまちづくりセンター（当時）職員として地域のみなさんの活動を応援し、地域の様々な人をつないでまちづくりを推進する仕事に携わりました。現在は千葉外房の里山でのんびり？と暮らしています。東京ボランティア・市民活動センター専門員のほか、武蔵野美術大学通信教育課程社会形成デザイン講師を務めています。



●飯尾 友子（いいお ともこ）

本牧山頂公園和田山地区愛護会会長

子育てのため杉野服飾大学（現）の手芸研究室をやむなく退職し、以来身の回りに不足する課題を解決するために活動を続けてきました。

市民活動は、国際児童年に立ち上がった子供の遊びを考える『いいじゃんかい』に加わることから始まり、いくつも重ねて学びながら、生涯学習相談員、社会教育指導員補、放課

後はまっ子ふれあいスクールチーフなど、ボランティアから始まり職業にも繋がりました。

退職した今は又、地域の課題として、野外での地域異世代交流の場を充実させるため、本牧山頂公園の一角で、まち普請で獲得した雨水利用の施設『雨だれデッキ』を設置したあそびの広場（本牧山頂和田山地区愛護会）で、活動しています。地域の課題解決のお手伝いができれば嬉しいです。



●植松 満美子（うえまつ まみこ）

ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

私は、青少年指導員、地元自治会の役員等を務め、現在も主任児童委員をしており、これにつながる様々な地域活動に携わってきました。私の住む松ヶ丘地区は、横浜駅にほど近い、国道1号線や三ツ沢25号線などに囲まれた丘陵地で、国道から一步入ると急な坂道や細い道が多く、通学、通勤、

買い物に行くのにも坂の上り下りは欠かせません。また、指定されている地域防災拠点や広域避難場所への避難も、高齢の方や障害をお持ちの方には難しいことと、東日本大震災を経て痛感させられました。

そこで自治会では、いっとき避難場所として自治会館の活用に思い至り、防災機能と備蓄品の充実を図るため自治会館内に防災備蓄庫を設置することを決定。これを「まち普請事業」の助成を得て平成25年度、完成させることが出来ました。私はこの活動に深く関わる機会を得て、その後自治会内に立ち上げた「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の活動を通して、「松ヶ丘まちづくりプラン」の策定に努め、松ヶ丘町内の防災面の強化に関わってきました。



●加藤 功甫 (かとう こうすけ)

ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

特定非営利活動法人 Connection of the Children(CoC) 代表理事。長野生まれ。横浜国立大学大学院修了。在学中、25社の協賛を獲得しユーラシア大陸2万kmを自転車で横断。今までに述べ世界84カ国を旅しました。中学校の保健体育教師、ランニングイベントの企画実施団体、企業研修会社を経て、2013年にCoCを創業。CoCの活動の中で2016年、CASACOという2階が留学生のシェアハウス、1階が様々な世界とつながり挑戦できるイベントスペースを作りました。CASACOの構想が生まれるまで「まちづくり」には全く縁がなく、試行錯誤の中でまさに走りながら「まちづくりって何だろう？」と考えてきました。

ですので、まち普請では、(専門的な助言は諸先生方にお任せし・・・)誰よりも皆さんに近い立場で、皆さんが夢を叶えるために踏み出す一歩を応援できればと思っています。



●川原 晋 (かわはら すすむ)

東京都立大学都市環境学部教授

専門は観光まちづくり、都市・地域デザイン。観光地再生、まちづくり市民事業、市民参加まちづくり、公民連携による公共空間活用などの理論と実践に取り組んでいます。

前職では、都市計画コンサルタントや建築設計者として、横浜市や区の都市計画マスタープランや市民利用施設の検討ワークショップ等の業務や、福祉施設等の設計に携わりました。

藤沢市都市景観アドバイザー、八王子市景観審議会委員、横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会委員(横浜・人・まち・デザイン賞)、地元小学校のPTA会長などを経験。趣味はガーデニング。



●後藤 智香子 (ごとう ちかこ)

東京大学先端科学技術研究センター特任講師

東京理科大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同専攻博士課程修了・博士（工学）。柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）ディレクター、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教を経て2019年より現職。

大学院生の頃から、住民主体による私有地を活用したまちづくりやそれを支える制度について研究をしてきました。具体的には、世田谷区の「地域共生のいえづくり」支援制度などについて研究をし、またそのご縁で地域共生のいえの一つ、「岡さんのいえ TOMO」の運営や活動に10年以上携わっています。

また最近では、保育園（こども施設）とまちとの関わりについても研究しており、こども環境にも関心があります。



●松村 正治 (まつむら まさはる)

NPO 法人よこはま里山研究所 NORA 理事長

1999年から多摩丘陵の里山保全運動にかかわり、2005年から現在までNPO法人よこはま里山研究所(NORA)理事長。まちの近くで里山とかかわる暮らし、里山をいかす仕事づくりをすすめています。ほかに、モリダス代表、NPO法人森づくりフォーラム理事など。

NPOでの市民協働や地元町会長の経験をもとに、神奈川県ボランティア活動推進基金幹事会、横浜市市民協働推進委員会なども務めてきました。

一方、2020年に大学専任教員を退職後、独立研究者へ。専門は、環境社会学、公共社会学、持続可能社会論。調査フィールドは、多摩丘陵、八重山、五島・対馬ほか。大学では、フィールド・スタディやサービス・ラーニング等の経験学習プログラムも担当しました。現在は3つの大学で兼任講師、梨の木ピースアカデミーでコーディネーターを務めています。

■ 令和4年度 1次提案一覧 ■

発表順	区	提案グループ名	整備提案名	ページ
1	磯子	磯子のあれこれ	磯子駅前の記念碑の甦りと小さな花園造り	11
2	金沢	山本助産院 笑楽幸プロジェクト運営委員会	笑楽幸プロジェクト（多世代型交流拠点事業）	17
3	港北	COCOしのはらガーデンコミュニティをつくろう会	まるっとゆるっとCOCOしのガーデンコミュニティ	22
4	保土ケ谷	川島地域のまちづくり検討会円卓会議	まち自慢の仲間をつなぎ広げる「わがまち川島散策」	28
5	泉	弥生台市有地活用建物における地域貢献施設活用委員会	世代間交流を目指した持続可能な地域づくり	34
6	神奈川	てんこもりのわ	松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト	41
7	南	あったかい弘明寺まちづくり実行委員会	みんなで創ろう！あったかい弘明寺まちプロジェクト	47
8	都筑	えだきん夢叶きゃらばん運営事務局	出会い体験学び処パリスト@ぱんじーの秘密のパン工場	53
9	磯子	まちまど・洋光台シェアベース実行委員会	「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ	59
10	港北	町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト	鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る	65

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	磯子のあれこれ
現在の主な活動 内容・活動実績	「磯子区を知ろう、楽しもう」をコンセプトに磯子区中心に幅広く活動 【活動実績】(月2回) 久良岐公園散策、三殿台遺跡見学、岡村天満宮、防災講習、植物講習 フォークデュオ「ゆず」の地元「岡村」、産業振興センター(文明堂等)
提案場所	磯子区 森一町(丁目)
提案名 (25字以内)	磯子駅前の記念碑の甦りと小さな花園造り
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	1. JR磯子駅前に立つ石碑の修繕と説明看板の整備 2. 線路沿いの小さな花壇スペース 3. 公共トイレ横スペースにイングリッシュガーデンの造成 (枕木・テーブル・椅子・パーゴラ等) 整備費用の概算額：約 200 万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	【石碑】 貴重な歴史ある石碑を清掃修理し、説明の立て札を設置することにより、 地域の方に海だったころの歴史の一部を感じていただけたらと思っています。 歌碑の石板が美しくよみがえったあと、広報紙等により市区民に発信したり、 地域の学校に紹介をして社会科見学の一環に利用していただけると嬉しいです。 【小さな花壇スペース】 現在は手入れされていません。季節の草花を植え、季節の野外置物などを 置くことで、磯子駅の利用者や子育て支援拠点「いそピヨ」を利用する親 子、駅前でコミュニティバスを待つ親子連れ、ご高齢の方、隣の公共トイ レを利用するバスやタクシーの運転手さん、多くの方がこの小さな花壇を 楽しんでいただけたら嬉しいです。子供向けにイベントも開催したいと思 います。 (例) 火を使わない牛乳パックを使ったキャンドルナイト、イースターの 頃には中高生に作ってもらったエッグを隠して、小さな子供たちに探して もらうイベント、クリスマスにはイルミネーションの飾りつけ。風車を作 ってもらって地面に並べたり、秋には区花であるコスモスを植える等。
提案の背景(な ぜ提案をするの か、地域のニーズ や課題、生かした	【石碑】 石碑には、歴史やその背景を、時代を超えて想像させてくれる魅力があり ます。磯子の海の美しさをお詠みになられた秩父宮世津子妃殿下の情緒あ ふれる御歌は、磯子区の魅力のひとつと感じます。また、根岸湾で働き、

い地域の魅力等に 触れて説明してく ださい)	この地を大切にされた屏風ヶ浦漁業組合の皆さまの想いを御染筆に重ねた歌碑を広く紹介し、後世まで大切にしたいと思いました。 【小さな花壇スペース】 四季折々の花は、見る人の心を癒し、季節の移ろいを感じさせます。GW中に石碑の雑草を抜き、花を少し植えましたが、たった一列の花でも癒されます。ある日、二組の親子が石碑前で足を止め、2歳頃の子供が小さな草を触っていました。2027年に開催される「横浜国際園芸博覧会」に向けて磯子駅前も花で飾り、博覧会を盛り上げることができればと思います。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	「花やみどりが多い街」にしたいと思います。区役所前には大きな花時計が設置され、定期的に植替えもされていますし、清掃または園芸ボランティアグループが各々、活動されていますが、一緒に造園することで各グループにつながりができ、情報交換も活発になり活動の輪が広がり、快適なまちづくりを目指すことができると思います。花壇の区画を利用し、イベントを開催する場合は老若男女問わず楽しめる企画を考え、時には若い人たちのアイデアで街を活性化できるようにしたいです。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	「いそご区民活動支援センター」の掲示板を利用させていただいて、花壇等整備の活動をさせていらっしゃるボランティアグループに協力をお願いし、スーパー等に花壇造りの一般協力者募集のポスター掲示をさせていただいて、地域全体で憩いの場（イングリッシュガーデン）を造ります。区内の「磯子工業高校」には文化部の中で磯工グリーンクラブという部活動をされているそうです。廃材を利用した木工体験などをされているそうなので、是非とも学生の協力もお願いするつもりです。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	園芸活動をされているグループにご協力いただき、花壇整備などの知識、経験を持つ方にアドバイスをいただきながら、花壇を整備します。花壇等施設の整備、維持は有志を募り、花の植替えはイベント化も考えています。整備にかかる技術面については、区内の業者への依頼も考慮しつつ、家庭の庭づくりのように手作業で作りたいと思っています。必要経費については、企業、商店への募金活動やイベント時の募金活動を考えています。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	海側には大企業が集まっていますので、企業さんと共同でイベント開催も考えます。花壇の区画に大木がありますが、クリスマスイルミネーションをしたり、ロープを掛けて小さな子供にブランコ体験させたり、わくわくするようなことを沢山考えたいと思います。「磯子に花火」も夢のひとつです。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
J R 磯子駅	窓口の磯子駅職員より磯子駅駅長様、JR東日本の上層部の方から「よい機会なので整備してもよい」と了承いただきました。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図



整備予定地：磯子駅前

現況写真



石碑と整備したい区画
(草を抜き、花を植えました)



イメージ図



石碑には防草ネットが張ってありますが、花を植えたいと思っています。
石碑の前には、御歌と屏風ヶ浦漁業組合が建てた理由の説明文を置きたいです。

イングリッシュガーデンが理想です。
協働していただける方と（できれば子供の参加も）小さなスペースに花を植えます。
地域の方とキャンドルナイトなどイベントを行いたいです。



その他資料

- 石碑の向かい側（歩道橋下）にはプランターが並び、色とりどりの花が植えられていますので同様に線路側のスペース（現況写真参照）も地域の皆さまが楽しめる空間にしたいです。



- 石碑の由来（参考:「横浜みちばた歴史館 埋立地 その3」から一部抜粋）

根岸湾一帯の埋立工事そのものは、都市計画に基づいて明治時代から行なわれていました。

その後、明治22(1889)年には杉田近辺で大規模な住宅用地造成が行なわれた記録が残っています。また、明治31(1898)年には工業用地の埋立出願があったということで、早くから工業地帯化させるプランが存在していたことが分かります。

同時に、明治から大正にかけて、海岸沿いに横浜とそれ以西を移動する際のルート確保のため、屏風ヶ浦海岸沿いの埋立が行なわれています。屏風ヶ浦は海の侵食によって作られた50mあまりの断崖がそびえたつ、風光明媚な場所として知られていましたが、円滑な交通の妨げとなっていました。そのため、海岸線を埋め立てて道路を整備し、大正3(1914)年には**県道(現在の国道16号線)**が開通しました。埋立事業は大正に入ってからさらに進行させる計画でしたが、地元漁民の反対運動が根強く、実現には至りませんでした。

しかし、太平洋戦争が始まる頃になると、軍需工場の用地として杉田近辺の埋立が進行。根岸では**大日本航空の飛行場用地**とするための埋立が行なわれました。

さらに昭和16(1941)年には**磯子杉田町地先公有水面埋立計画**と呼ばれる根岸湾を臨海工業地帯とする目的をもったプランが浮上。市議会で議決されましたが、戦争の激化に伴って一旦お蔵入りとなります。

ところが終戦後の昭和26(1951)年ごろにこのプランが再浮上します。これは桜木町から根岸を經由して大船まで到達する**国鉄根岸線**の敷設プランと歩調を合わせたものでした。根岸湾で水産業を続けていた屏風浦漁業協同組合はこのプランに対して根岸・本牧の漁協と一緒に反対しましたが、横浜市の都市発展を進行させてほしいという世論の高まりをうけて反対を断念。以上のような経過を見て行きますと、**根岸駅前の記念碑は横浜発展のために海を離れざるを得なかった漁民の思いが詰まった、大切な碑であると言えるでしょう。**

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	山本助産院 笑楽幸プロジェクト運営委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	山本助産院は、28年間にわたり妊娠期から乳幼児期を中心に、専門性を活かした幅広い活動を実践してきた。訪問看護ステーション・子育て支援広場を併設し、県内外の看護大学から実習生を受け入れ、教育施設としての役割も果たしている。関東学院大学有志、NPO法人等と多様な立場との共同により地域の子育て支援を実践している。
提案場所	金沢 区 六浦二 町・丁目
提案名 (25字以内)	笑楽幸プロジェクト（多世代交流拠点事業）
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	提供された空き家を利用し、安心して地域住民が集える場を作る。古家を改築し、「医療・福祉・育児支援を備えた多機能型施設」「地域住民のカフェ・なんでも相談所」として、気軽に入れる建物とする。外から屋内へ段差なく入るためのスロープの設置、フロアのフローリング化、仕切り壁の撤去、トイレ改修を行い、高齢者、乳幼児が安全に集える場所にする。縁側を設置し、小さな子が庭で遊べるように整備する。カフェ開設のため、キッチンの改修、カフェスペースの設置を行う。 整備費用の概算額：約 540万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	空き家が多く、高齢化が進んだ周辺エリアを活性化させ、子育て支援を統合する地域の拠点として、多世代（高齢者、子育て世代、子ども）が集まる場所として機能する。訪問診療所(案)、訪問看護ステーションを併設し、多機能施設とし、地域の有志により各種イベントを実施する。(祖父母世代に遊び方を学ぶ、ごはんやおやつを作って食べる、親と子のつどいの広場との合同イベント等)を企画、運営する。医師・助産師・保健師・看護師・保育士・幼稚園教諭・建築士・ケアマネージャー等専門職集団の強みを生かし、種々の相談に対応していく。地域住民、大学、助産院、親と子のつどいの広場、横浜金沢八景ロータリークラブと連携し、施設を運営していく。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	金沢区六浦地区は、①高齢者が多い（独居 認知症等）②子育て世代と高齢者との交流が少ない ③山坂が多く駅・商店まで遠い ④空き家が多い等の問題・課題がある。 空き家が、有効に活用されないまま放置され廃屋となり防犯上も不安である。高齢者を含め住民同士顔が見える関係を築くことが求められている地域であり、人の出入りの多い助産院・つどいの広場の隣地であるメリットを活かし、地域を活性化していきたい。 居場所作りという一つの目的のために、様々な立場から多くの方が関わるきっかけとなり、安心・安全・快適・満足な交流の場としての役割を担っていく

目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	サロン、イベントでの交流をきっかけに、高齢者世代も若い世代も知り合いとなり、良好な関係性が築かれる。 医療職が、関わることで育児、介護など行政と連携し、社会資源の利用へとつなげ、支え合いながら生活できるエリアを目指す。 高齢者は、子育て世代や子どもたちに知恵を伝え、こどもは多世代の交流の中で多様な価値観や思いやりをもって育ち、子育て世代が孤立した育児から解放され地域の中で育児を行えるようになる。 また、地域の防犯・災害対策も考慮し、安心安全な暮らしを送れる地域を目指す。高齢化が進む金沢区六浦エリアに、子育て世代が住みやすい町を作り、「金沢区子育て支援の協働の指針」にある「場づくり」「情報提供」「つながりづくり」を行う場所として、また「こどもの健やかな育ちの支援」「養育者の健康づくり」に加え地域住民全体の健康づくりに寄与する取り組みを行い、健康な地域を目指す。駅から遠く不便な地域に人が集まる場所を作ること、地域の活性化を図る。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	建築士や学生ボランティアの協力を得て設計・整備計画等を作成し、コストを押さえ改修を行う。 金沢八景ロータリークラブや地域の企業・業者に協力を依頼し、社会貢献を促進していく。 利用住民のボランティア参加を促し、住民全体の意識を高めていく
運営時の協働（運営するときに関連する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	隣接する助産院、訪問診療所（案）、訪問看護を中心とし助産師・保健師・看護師・保育士・幼稚園教諭・建築士・ケアマネージャー等専門職からの支援を受ける 大学、親と子のつどいの広場、育児サークル、横浜金沢八景ロータリークラブと連携し、施設を運営していく。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	高齢者が生きがいを持って暮らし、笑顔で子育てできる場を作る。それを多くの専門職が支え、地域住民のボランティアの場となり、地域で子どもたちが育ち、高齢者が見守られる環境にしていく。 このような施設をモデルとして、高齢者支援と子育て支援を統合し専門職が支援するあり方を、各方面に発信していきたい。 医療・福祉を受けるのみでなく、生み出していく発想である。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地・建物の所有者	長らく空き家として放置されていた所を購入したが、地域のために活用してほしい

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

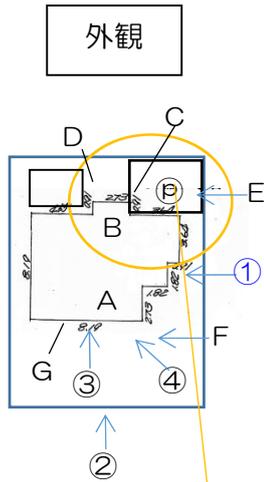
位置図



周辺の状況



現況写真



<整備内容例>

カフェ、サロン開催の
ための改修



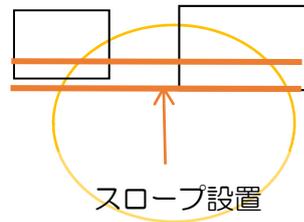
床のフローリング化 段差をなくす
壁の撤去 広いスペースの確保

B



キッチンの改修
カフェスペースの設置

バリアフリーのための
スロープの設置



スロープ設置のため、
物置撤去



スロープ設置のため、車庫内壁、屋根撤去

縁側（ウッドデッキ）の設置



縁側（ウッドデッキ）

活用イメージ図

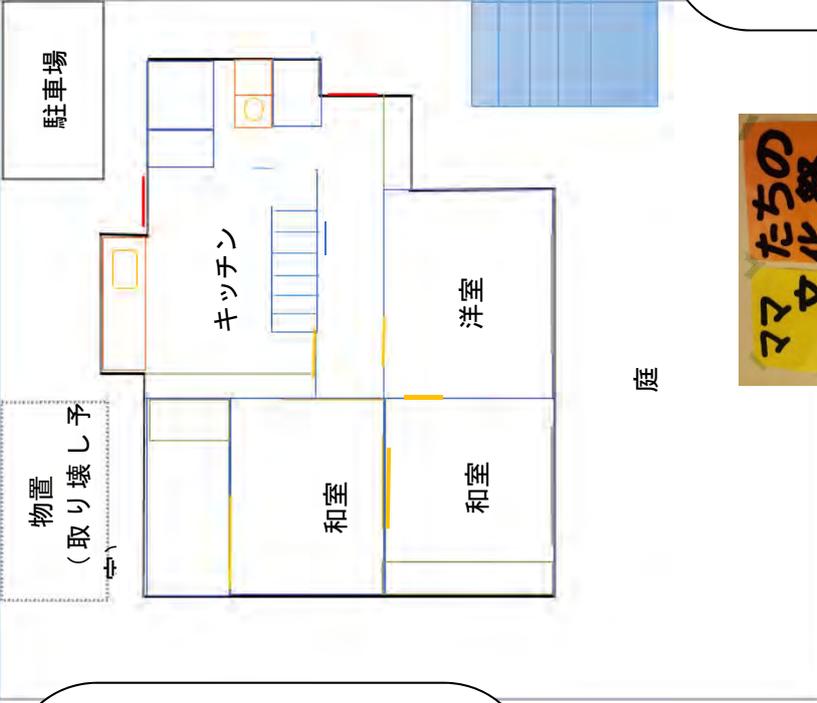
笑楽幸プロジェクト ～皆が集い、笑って楽しく幸せになる場所

訪問診療所 (案)

訪問看護ステーション サテライト

医師、助産師、看護師が入りする場。
なんでも相談所として、相談を受ける。

健康チェック (区健康づくり課貸出しの体
組成計、BCチェッカー等によるチェック、
血圧測定等)



日替わりカフェ

子育て世代、地域の住民、
だれでも利用できるカフェ。



イベントの開催

- 地域の有志による昔遊び
- 調理師、カフェスタップによる ごはん作り
食の会、おやつ作り
- 地域の住民によるマルシェ
- ヨガ、エクササイズ等の開催
- 親と子のつどいの広場との合同イベント
(お庭でプール等)
- 医師、看護師、消防士による救急救命講座



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	COCOしのはらガーデンコミュニティをつくろう会
現在の主な活動 内容・活動実績	庭付き1軒家のCOCOしのはらは今春で6年目の運営に入り、介護支援生活総合支援事業として週3日の高齢者が通える場づくりと親子との交流をカフェやランチ付きで交流の場を創ってきている。
提案場所	港北区 篠原町
提案名 (25字以内)	まるっとゆるっとCOCOしのガーデンコミュニティ
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	庭付き1軒家のCOCOしのはらを取り巻く庭(約200㎡)の全体整備 1) 高齢者が頻繁に訪れるにふさわしいアプローチの段差解消など バリアフリー化 2) 生垣の再整備により建物内外での交流が見通せる入りやすい空間づくり 3) 土いじり、団らん、野外映画上映など、様々なニーズに応じた 庭での居場所づくり 整備費用の概算額：約500万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	毎月定期的に土曜日に開催している「オープンガーデンマルシェ」 (寄付品や持参品のリサイクルや地域の人による手芸や工芸など1日 販売ブース、学童期の子どもたちの手作り品など)による開放日を 設け、それぞれが交流しながら買い物したり趣味を聴き合ったりする 情報交換の場が安心安全に日常的にできる環境づくりを目指す。
提案の背景(なぜ 提案をするのか、 地域のニーズや 課題、生かしたい 地域の魅力等に 触れて説明してく ださい)	感染症の影響もあり、施設内での交流に懸念を持つ利用者にとって、 戸外(庭)の空間を活用しながら交流する機会が多かった約2 年間だった。本地域は区内でも屈指の文教地区と言われ、これまでも 企画実施してきた「プレミアムナイト」というプログラムでは、 毎回その道に長けた人から、楽器やアートを演じて頂く、または講 話を聴き、地元の歴史等を語り合う時間等が大変好評だったことから、 芸術文化に造詣の深い人たちが、知見を寄せ合い、演じることで 地域の人との出会いを増やしたいというニーズが常に寄せられ、 室内だけでなく、庭でもそんなひとときが過ごせることが望まれている。 同時に日頃はプランター栽培で楽しんでいる方からは広い庭 を活用してやりたい畑づくりや植物の世話をもっとしたいなど、持 ち込まれるニーズも多世代に渡って高まってきている。地区センタ ーや地域ケアプラザ、町内会館等が山坂の先にあるので、身近な場 所でしかも民家でハードルが低い場所という利点を生かすためにも、 現在、1部ハード的にバリアフリーでないことから生じるアクセス へのバリアを少しでも軽減したいというのが提案の背景である。
目指す地域の将来 像(提案を実現 することで、どの	活動を始めて早5年、介護予防プログラム参加者や施設レンタル で活動している人たちから寄せられるニーズに都度ごとに対応して きたのでそれぞれがまだ点で繋がっている状態。

<p>ような地域にした いと考えますか)</p>	<p>活動曜日や対象者が異なることが原因でもあるが、今後は前述の「ガーデンマルシェ」のようなイベントをより日常的にできる機会を創れるよう、それぞれの団体の機能や情報発信が交差する外環境を提案すること。</p> <p>思い思いに過ごせる中で他者、他児への関心を持ち、関係性が生まれていくような自然に誘い合って次の関係性が生まれるような場づくりを目指す。</p> <p>主事業である介護予防のプログラムを行うだけでなく、農の体験やマルシェなど、暮らしに根ざしたかつ趣味や興味関心から繋がっていきける機会を創出することで、通所の方や活動団体の構成員を地域に繋ぎ、お互いが施設を介在しなくても自発的に声を掛け合い、見守り合え、新たな出会いが、生まれるような地域づくりに寄与できること、持続可能な関係性に発展していきけることが将来像である。</p>
<p>整備時の協働 (つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>■既設のラベンダー畑を活かしつつ他エリアでの農業支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芹田果樹園 ・篠原オープンガーデン ・ビオトープづくり 田園調布大学仙田満先生など ・COCOしのはら園芸ボランティアグループ <p>■コーナーごとの配置提案や交流プログラムの企画発案など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COCOしの麻雀ボランティア (環境づくりアドバイザー)
<p>運営時の協働 (運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>■広報周知・人材紹介・地域イベントとの協働開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篠原町内会 ・篠原町内会連合会 ・篠原地域ケアプラザ ・六角橋地域ケアプラザ ・城郷小机地域ケアプラザ ・大豆戸地域ケアプラザ <p>■レンタルスペースや農園の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SOW (不登校や生きづらさを感じた親子が集う場を運営) <p>■イベント開催時および開設当初からの木工や造作の協力者</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回地域に向けたマルシェを実施。ほぼ定着してきた ・高齢者の居場所として利用しているだけでなく日常的に乳幼児や学童を持つ親子が来館している <p>以上のことからすでに運営時のスタートアップは円滑なことと、こうした活動を環境改善の今回の取組みによってもっと地域に幅広く開いていける可能性に期待している。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
整備場所の地権者	<p>地権者からのコメント</p> <p>他事例もよくご存知で快諾。</p> <p>コメント→「障がい児者にやさしい出入口、スロープ、誰でもが楽しめる整備を願いたい」</p>

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



現況写真



COCOLのほら
外装工事案

クリアカーポート

スロープ

ガーデンテーブルと
チェア

テラス兼ステージ

マルシェブース

植栽の高さを低くする

可動式門扉

(既存)
ラベンダー畑

ハンモック

(既存)
木登り出来る木

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	川島地域のまちづくり検討会円卓会議
現在の主な活動 内容・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 川島地域のまちづくり検討会円卓会議の開催（年数回程度） まち自慢部会によるウォークイベントの開催（年数回程度） スポーツ・イベント部会を中心としたくぬぎ台小学校跡地におけるオータムフェスティバルの開催（年1回程度） 伝統文化ツーリズム部会によるわがまち川島散策マップ冊子作成
提案場所	保土ヶ谷区川島町
提案名 (25字以内)	まち自慢の仲間をつなぎ広げる「わがまち川島散策」
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	<p>かつて「わがまち川島散策マップ」看板を設置した、くぬぎ台団地バス停周辺、川島公園、ほどがや元気村の看板周辺を、利用者が憩い交流できる場所になるよう、常設又はイベント時のベンチ設置など空間の使い方を改善する。合わせて、看板をSNS等と連動可能な内容かつ耐久性あるものに作り替え、インターネット上に地域の魅力資源や旬の情報等を紹介する「わがまち川島」情報サイトやSNSページをつくり、多世代に向けて、随時情報発信できるようにする。</p> <p style="text-align: right;"><u>整備費用の概算額：約500万円</u></p>
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<ul style="list-style-type: none"> 住民や来訪者が「わがまち川島散策マップ」の看板周辺で憩い、交流でき、看板に表示するQRコード等から「わがまち川島」情報発信サイトやSNSページにつながるようにし、新たな発見をすることで、地域交流への参加や担い手の輪を多世代に広げる。 「わがまち川島」情報サイトからリンクする魅力資源のルートガイドマップ、自然や歴史文化の解説動画（YouTube等）、自治会交流行事や直売所の出品情報等を発信するSNS等を見て、より多くの人が、季節ごとの川島地域の魅力を楽しめるようにする。 「わがまち川島」情報サイトと、くぬぎ台団地や川島町公園の看板周辺を、災害時のローカルな情報交換や安否確認、助け合いのサブ拠点等として活用し、安全・安心まちづくりにつなげる。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>川島地域では、旧くぬぎ台小学校の閉校をきっかけに、川島原地区と川島東部地区の住民が参加する川島地域のまちづくり検討会でワークショップを重ね、2014年に「川島地域のアクションプラン」を策定した。その実行体制として、住民有志の部会と、全体の連絡・調整を行う円卓会議を立ち上げ、地域の魅力資源を活用した活性化プロジェクトに取り組んできた。2015年に「わがまち川島散策マップ」の冊子作成、2016年に横浜国立大学と協力して看板の設置等を行ってきたが、冊子や看板では活動周知に限界があり、更新しにくく劣化も起きている。今後、くぬぎ台小学校跡地を活用した地</p>

	域交流拠点づくりに向け、協働の仲間づくりを広げていくため、より多世代の住民の交流や情報交換の場を増やす必要がある。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	<ul style="list-style-type: none"> ・川島地域の季節ごとの魅力資源を楽しんで歩く人が増え、健康に暮らし続けられる地域になっている。 ・多世代の住民や事業者が集う機会が増え、いざという時に支え合い、助け合えるコミュニティがある。 ・「わがまち川島」情報サイトを入口としたSNSやイベントでの交流を通じて、まち自慢や伝統文化ツーリズム、スポーツイベントへの参加者やサポーターが増え、くぬぎ台小学校跡地における地域交流拠点づくりの活動につながっている。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・くぬぎ台団地のUR都市機構、川島公園を管理する市、ほどがや元気村のオーナー等と協働し、看板周辺で実験的に憩いと交流の空間をつくるイベントやベンチづくりワークショップ等を行う。 ・陣ヶ下溪谷の動植物に詳しい人、川島囃子の継承者、農家や農産物を活かした料理が得意な人、SNS発信が得意な人など一芸をもった住民の名鑑づくりの活動「一芸プロジェクト」も合わせて実施し、魅力発信の担い手を増やす。 ・名木や稲荷神社、農園や農産物直売所等の所有者やガイドボランティアと協力して、魅力資源の紹介動画等のコンテンツを作る。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・住民サポーターが自治会や農産物直売所等の情報発信を手伝う。 ・自治会や地区社協、地域内の福祉施設等が協力して「わがまち川島散策マップ」看板周辺の交流空間を利用したミニイベントやウォーキングを開催する。 ・くぬぎ台コミュニティハウスやくぬぎ台小学校跡地の活用事業者と連携して、地域交流拠点の紹介やイベント予定、サポーター募集等の情報を発信する。 ・農家や住民の参加を得て朝市やフリーマーケット等の売り上げの一部寄付などで資金集めをする。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	「川島地域のアクションプラン」には、住民ワークショップによる15のプロジェクト提案集があり、部会活動により一部を実現してきた。くぬぎ台小学校跡地活用に時間がかかり、コロナ禍もあり活動が停滞していたため、「わがまち川島散策マップ」の看板と周辺環境の整備をきっかけとして、仲間づくりの拡大や、次の拠点づくりの活動への展開を目指したい。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5) への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
都市再生機構(独立行政法人)くぬぎ台団地、川島公園、ほどがや元気村所有者	看板設置等に引き続き協力する(2022年3月～5月に確認)

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報含まれていません。

まち自慢の仲間をつなぎ・広げる「わがまち川島散策」 提案場所 位置図

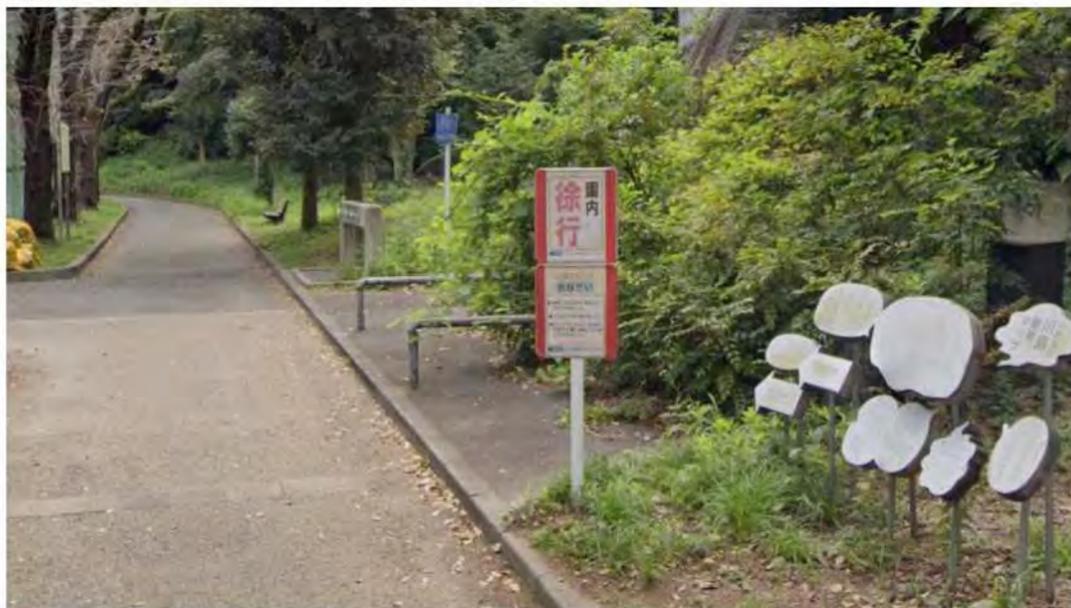


まち自慢の仲間をつなぎ・広げる「わがまち川島散策」現況写真

①くぬぎ台団地バス停周辺（保土ヶ谷区川島町 1404）



②川島町公園（保土ヶ谷区川島町 825-1）



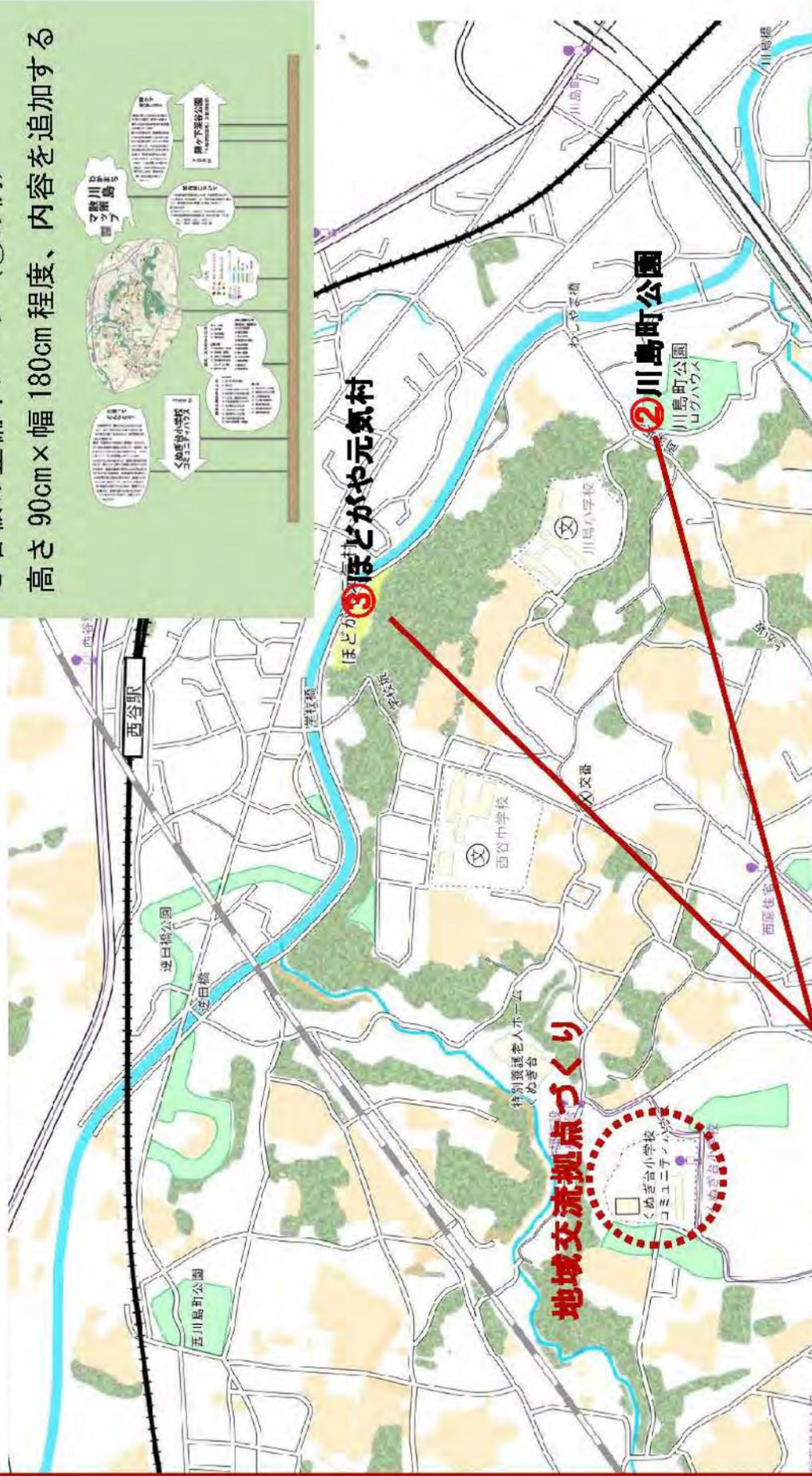
③ほどがや元気村（保土ヶ谷区川島町 1130 付近）…看板は撤去されている



添付3 まち自慢の仲間をつなぎ・広げる「わがまち川島散策」活用イメージ図

- 看板を起点とした情報発信の展開イメージ
- 「わがまち川島散策マップ」の看板に表示するQRコード等から「わがまち川島」情報発信サイトやSNSページにつながり、季節ごとの自然や歴史文化の解説動画、自治会交流行事や直売所の出品情報等を発信する

- 「わがまち川島」情報サイトと、くぬぎ台団地や川島町公園の看板周辺を、災害時のローカルな情報交換や安否確認、助け合いのサブ拠点等として活用し、安全・安心まちづくりにつなげる
- 地域交流への参加や担い手の輪を多世代に広げ、くぬぎ台小学校跡地の地域交流拠点づくりにつなげる



- 看板の整備イメージ (①の例)
- 高さ 90cm×幅 180cm 程度、内容を追加する



- ①②③での場づくりのイメージ

- 耐久性がありQRコード等により情報更新しやすい看板に整備
- 看板周辺で、居心地のよく座れる空間づくり(プレイスメイキング)や、防災ベンチ等の災害時も考えた場づくり、ベンチづくりを通じた交流等により、日常は一休みしながら交流、災害時は身近な助け合いに活用する
- 有人ガイドや、QRコード等でリンクする動画ガイドで散策に活用



座れる空間づくり

防災も考えた場づくり

交流しながら場づくり

ガイドツアー

川島地域のまちづくり検討会 - これまでの活動経緯と成果

①「川島地域のまちづくり検討会」とは…

①川島地域の課題

- ①少子・高齢化の進展への対応
- ②道路基盤、交通利便性の改善
- ③旧くぬぎ台小学校跡地の活用の検討
- ④団地の再生、活用
- ⑤地域固有の魅力資源の活用



②川島地域のまちづくり検討会が取り組む活動

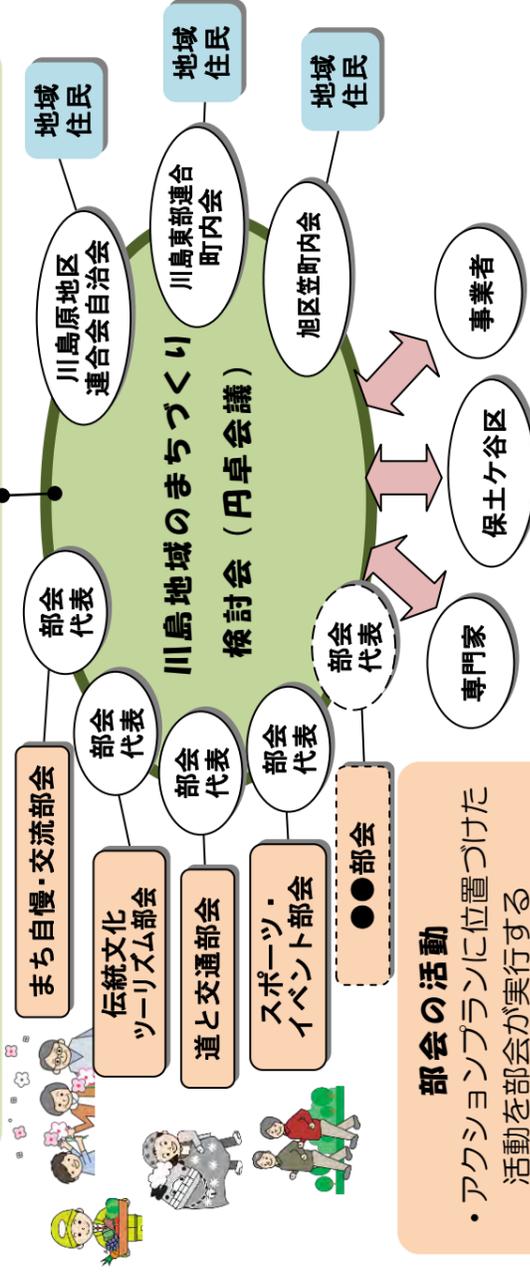
- ①地域で受け継がれてきた、緑、水辺、農、歴史文化、学校跡地を活かし、育てる
- ②大人も子どもも集い、ともに楽しめる場や活動をつくる
- ③この地域での暮らしの豊かさを広く知らしめる（「まち自慢」する）
- ④若い世代を呼び込み、まちを次世代に受け継いでいく
- ⑤これらの活動の前提として、住民の「安全・安心」や「快適な日常生活」のための課題解決にも取り組む
- ⑥①～⑤の実現のために、皆（住民、川島地域の活性化の関連団体、関心のある人や事業者）で策を考え、提案し、行動する。



③川島地域のまちづくり検討会の活動体制

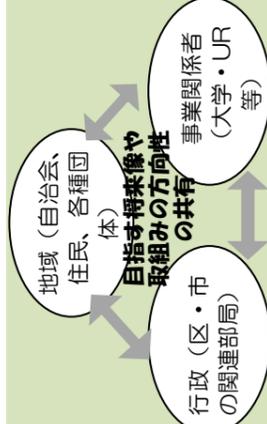
円卓会議の活動

- 川島原地区連合会、川島東部連合町内会、旭区笠町内会の情報交換、交流
- 部会の活動状況の情報共有 / ・市・区との協議調整の窓口
- アクションプランの進行状況の確認や見直し
- 部会活動が活性化に寄与しているかどうかの確認
- 地域まちづくり組織とその計画としての、持続発展する体制・仕組みづくり



②川島地域のまちづくり検討会のこれまでの活動経緯

- 地域の課題解決や活性化は、実効性や実現性を高めるためにも、その地域に関わる住民等が主体的に取り組んでいくことが大切です。
- そのために、自治会や旧くぬぎ台小学校跡地の利用者など広範囲にわたる地域住民と、関連する事業者、行政による体制で、川島地域の活性化に向けた検討を行ってまいりました。



回数	開催日時	内容
第1回	平成25年7月2日	1. 検討会の目標・進め方について 2. 地域の魅力を活かした活性化とは
第2回	平成25年7月31日	1. 川島地域の魅力と課題、将来像について 2. 将来像について～5つの視点から・大学からの提案
第3回	平成25年9月8日	1. 地域まちあさき 2. 地域資源の活用アイデアの洗い出しワークショップ
第4回	平成25年10月12日	1. 学校跡地見学 2. 取組み案の検討ワークショップ
第5回	平成25年11月17日	1. 具体の取組の検討ワークショップ 2. まちづくりの課題検討ワークショップ
第6回	平成26年1月11日	1. プロジェクト別の実行体制検討ワークショップ 2. 連絡調整会議のあり方について

回数	開催日時	内容
第7回	平成26年2月22日	1. 「アクションプラン」(ただき台)の説明・確認 2. これからの活性化対象範囲、活動趣旨、活動体制について 3. 部会の活動内容等について
第8回	平成26年3月22日	1. 「アクションプラン」案の説明・確認 2. 部会の活動内容等について

川島地域の活性化に向けたアクションプランを策定 その実現に向けて、円卓会議と、4つの部会を発足

まち自慢・交流部会

- ①ビクターセンター・まち自慢の拠点づくり (学校跡地)
- ②神社、溪谷、農、歴史を結び
- ③陣ヶ下溪谷公園プロジェクト
- ④農の活用プロジェクト
- ⑤買い物ができる・いこえる店づくり (学校跡地)
- ⑥高齢者と子供の交流・サービス・居場所づくり (学校跡地)
- ⑦一芸プロジェクト

伝統文化ツーリズム部会

- ⑧文化芸能フォーラム
- ⑨神社、溪谷、農、歴史を結び (再掲)

道と交通部会

- ⑩移動支援プロジェクト

スポーツ・イベント部会

- ⑪スポーツ・イベント拠点づくり (学校跡地)

その他のプロジェクト案

- ⑫陣ヶ下溪谷公園周辺の森づくり
- ⑬くぬぎ台川を整備
- ⑭空き家活用プロジェクト
- ⑮防災拠点として活用 (学校跡地)
- ⑯まちづくり推進プロジェクト



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名	弥生台市有地活用建物における地域貢献施設活用委員会
現在の主な活動内容・活動実績	<p>① 2016年より「2025年問題」にチャレンジする地域の居場所としてコミュニティだんだんを開所。</p> <p>② 令和3年度活動実績</p> <p>*新型コロナ感染拡大に伴い以前より参加者が減少したが延べ8,872名の方が交流。ボランティアさん延べ1,637人。ランチ提供5,532食。学習応援子ども食堂延べ918名。介護予防教室参加者延べ1,915名</p>
提案場所	泉区弥生台
提案名 (25字以内)	世代間交流を目指した持続可能な地域づくり
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	<p>弥生台市有地活用プロポーザルに選定された相鉄不動産の建物における地域貢献施設区画を賃借して、地域の方と共に地域貢献活動を展開したい。</p> <p>① キッチン整備。② 照明、空調整備。③ 教室運営や子供の居場所整備。 ④ ランチやカフェが楽しめるスペースの整備。⑤ 生活困難家庭、フードバンク等の活動の為に冷凍冷蔵庫設置。⑥ 大型モニター設置</p> <p>整備費用の概算額：約 500万円</p>
活用イメージ (提案する施設でどのようなことを行いますか)	<p>① 世代間交流を目指した持続可能な地域づくり</p> <p>*多世代住民とのワークショップを重ね地域課題に挑戦していく。</p> <p>*マルシェ（地域で採れた野菜や花等）</p> <p>*小箱ショップ（ハンドメイド作品の販売）</p> <p>*世代間交流の場（ボードゲーム）</p> <p>② 子どもの健やかな育ちを応援する子どもの第3の居場所</p> <p>これからの社会を生き抜く力を育むことができる機会と環境の提供</p> <p>*学習応援、相談の場。（参加することで、学校の出席になる）</p> <p>*未就学児から高校生、シニアなどの誰もが集える場</p> <p>*学習応援子ども地域食堂、ファミリー食堂・学習応援</p> <p>*生活困難者、片親子育て世代を対象としたフードバンク活動・フードパントリー</p> <p>*子ども110番の家</p> <p>④ ランチ・カフェ運営（7品目以上のランチ）</p>
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>高齢者の現状</p> <p>*泉区は、75歳以上の後期高齢者の割合が市内18区の中で5番目に高い。</p> <p>*新橋、中川地区は市の平均より高齢化率が高い。</p> <p>*泉区では、5年間で要支援認定者が524人増えている。</p> <p>現在、横浜市介護予防事業者として、週5日教室を実施していますが、あと4名で教室が満員になる状況です。</p> <p>子ども達の現状</p> <p>*全国の状況によると不登校児196,100人、自殺者415人、ヤングケアラー17人に1人</p> <p>*泉区での不登校児 約3,000人</p> <p>子ども食堂を7年間実施してきた。若い子育て世代の親が子ども達の地域活動</p>

	に関心を持ち、今年度、子育て世代ママが中心になりファミリー食堂を新規事業として立ち上げた。そのことにより地域活動に関心を持ち、活動していきたいとの意見があり、より発展し持続可能にしていくために新たな拠点が必要である。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	・子育て世代を軸に置いた多世代交流ができ、互いに尊敬し成長していく場にしたい。①こども達の成長に伴ったライフステージが変化していく中で、地域で切れ目のない支援をし、こども達やその家族が孤立せず安心して暮らせる地域となることを目的とする。②妊娠中から、乳幼児、小中学生、高校生、子育て中の親御さん、シニアの世代が集える居場所を目指す。③地域の中で、自分の居場所を見つけ地域の方と共に地域課題にチャレンジしていく事から「助け合い支え合い育む」素敵な大好きな街を目指す。④活動を通して次世代の担い手を育てていく。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	・現在横浜市介護予防・生活支援事業者として活動。泉区役所、いずみ野地域ケアプラザ、泉区社会福祉協議会と連携して取り組んでいますので、整備時にも相談し、連携しながら進めます。 ・コミュニティだんだん運営推進メンバー、賛助会員、会員、住民と協働して棚、花壇、レイアウト、活動プログラムを作成します。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	・新橋小学校の絵本の読み聞かせの仲間や、PTA仲間、定年退職を迎える、学校の先生、保育士、介護福祉士、社会福祉士、栄養士、保健師等の人材が支援を申し出ている。 ・学習応援・こども地域食堂、ファミリー食堂は、中川地区地域福祉保健計画に基づき共催で実施。そのこともあり、新橋小学校、岡津小学校、西が岡小学校とも連携している。 ・横浜市介護予防・生活支援事業を実施することにより、家賃が捻出できる。 ・地域の農産物の寄付がある。 ・こども食堂を運営しているので、神奈川県福祉こどもみらい、全国むすびえ等からの助成金が得られる。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	・地域の居場所として地域の方と共に歩んだ7年間の実績があり、地域貢献施設を運営していくためのノウハウを備えている。 ・マネジメント能力の実績があり、地域の方や地域組織、企業との連携がある。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例・地域のPTAから協力を受けられそう。・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例・整備に必要な材料を安く入手できそう。・整備に必要な建設機械を安く借りら
- 「カネ」の例・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
相鉄不動産	プロポーザル応募時点ですでに取り組み内容を説明しご理解をいただいている。賃借の要望について申し入れ済みで、前向きに検討していただいている。 地域の居場所として共に連携をし、地域課題と一緒に取り組んできた。まち普請申請についても、今後相談して進めていく予定。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報が含まれていません。

位置図



提案場所
泉区弥生台

現況写真



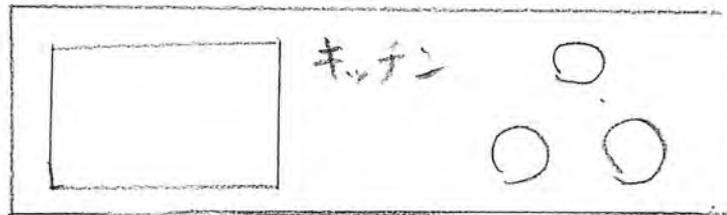
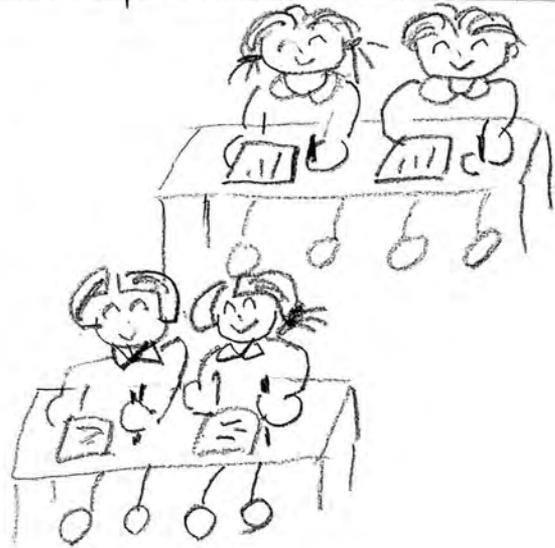
窓

窓

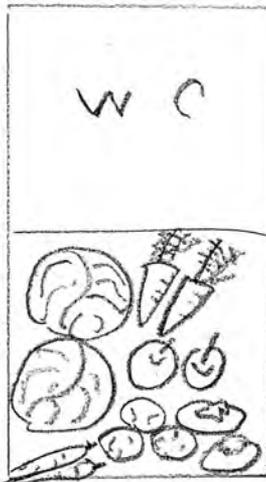
窓



教室



下駄箱



ノ □

活動写真



ファミリー食堂
子育て中のママたちが地域活動に関心を持って始めた事業です。



学習応援・こども食堂
7年を迎えました。
こども食堂の居場所になっています。



市介護予防事業 B事業
コロナ禍、ここだけは継続して出席して下さった方が、たくさんいました。身体を動かし、大いに笑い心も身体も元気いっぱいです。

コミュニティは花盛り
地域のボランティアさんが、いつも持って来てくれます🌸



フェリスのコンサート
生演奏で心も身体もリフレッシュ。



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	てんこもりのわ
現在の主な活動 内容・活動実績	多世代交流の場として週2回の居場所を提供しています。参加者それぞれが季節にあった折り紙をおったり、手芸用品をつくったり、お茶を飲みながらおしゃべりしたりと自由な時間を過ごし、交流を深めています。子育て世代には、実家のような安心感がある環境を目指しスタッフが一緒に見守る中で親が気を抜ける時間を作っています。ママ、パパがチョット休みたい時などにも利用していただいています。 サイズアウトしてしまった衣類などの交換の場、不用品バザーなども行っています。
提案場所	神奈川区松見町3丁目
提案名 (25字以内)	松見町みんなの実家「てんこもりのわ」プロジェクト
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>現在施設として使用している家屋を下記のように改修する事により、これまで地域拠点として、果たしてきた役割を、更に充実した形で展開することを計画しています。主な改修内容は、まず間取りの変更です。様々な使われ方をしてきた本施設は、状況に対応した柔軟な間取りへと変更をすることで、それぞれの活動が活発化し、それにより様々な背景をもつ来館者間のコミュニケーションが期待できます。次に食品衛生法に準拠したキッチンへの改修です。調理を通じたコミュニケーションの場とします。おばあちゃんから教わる料理教室、子どもの料理教室等を通し、家の中では体験できない魅力を作ります。また、地域食堂の開設、配食、カフェ開設も見込めます。また、子育て支援活動をする上で必要となる、より安全で利用しやすい施設の提供です。（子ども用トイレ、洗面台、シャワー室設置、アクセス周りやブロック塀等）</p> <p>以上の整備により（耐震補強含む）本団体がその名の通り、てんこもりな活動をする事により、「家庭ごとに孤立」しがちな地域住民を、「てんこもり町内家族」に展開していきたいです。</p> <p style="text-align: right;">費用の概算額：約800万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	地域食堂の開設、利用者に寄り添ったお弁当の宅配、子どもの料理教室、おいしい珈琲のいれかた教室等家庭の中ではできない活動を展開します。地域の人材に精通したメンバーによる運営で地域の人材が生きるコミュニケーションの広場を築きます。誰もが気軽に立ち寄り休める雰囲気を目指します。コロナ前に町内会で月1度行っていたシニア世代のランチ会を、このキッチンで作ったお弁当を使い、衛生面等に対応した上で再開したいです。子育て世代を巻き込んだ活動などを企画することにより、地域の人材発掘につなげ町内会活動の活性化に結びつけたいです。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地	松見町3丁目は静かな住宅街で、町内には大きな公園もありますが、それ以外の施設はありません。その為全ての屋内活動は、町内会館を除いて住宅内で完結させなければなりません。その町内会館も、山を跨いだ立地にあり、中は会議室仕様となっています。本団体の活動は、実家のような雰囲気が高齢者と子

域の魅力等に触れて説明してください)	育て世代が、自然に交わることのできる場所の提供を目指し、世代を超えて地縁による緩やかな互助関係を構築しようと言うことから始まりました。これまでの活動実績によりこのような場に対する地域のニーズは高く、現在の週2回の活動でも幅広い世代に利用されています。活動をしていく中で、地域スタッフを増やし、活動日数も増やす必要性を感じています。コロナでできなくなってしまったイベントや活動も、ウィズコロナで再開を予定しています。現在の活動をさらに充実させイベント等を通じて赤ちゃんから高齢者まで安心して楽しんで暮らせる地域を作りたいです。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	実家のような雰囲気を作り、誰もが気軽に立ち寄れるような場にする事により、日中独居の高齢者や、子育ての孤立、子どもの孤立をなくしたいです。普段から自然な挨拶のできる関係を築き、誰もがSOSにも気づきあえるような地域コミュニティの構築を目指します。 高齢者の場、子どもの場と区別するのではなく自然に顔見知りになれるイベント等を行う事により相互に思いやりの持てる関係作りを目指します。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・町内在住の有資格者（大工、内装、電気設備）にアドバイスを受けられ、協力もしてもらえます。 ・スタッフ、居場所利用者などでできる作業をします。 ・町内会、連合町内会、行政機関へ繋げ相談支援をお願いします。 ・国際ロータリー第2590地区ロータリークラブ資金援助、人材の紹介をお願いします。 ・地権者に、耐震補強資金援助をお願いします。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、連合町内会各種講習会、イベント等開催の協力依頼をします。 ・かなっば畑の会、新鮮野菜販売、孝楽会（特養）食事提供などに使う野菜の提供と収穫体験などをしてもらいます。 ・お寺おやつクラブ、おやつの提供をもらいます。 ・地域住民に折り紙講師、カラーセラピストやヨガインストラクター等がいるため各種講習会を開催します。 ・幼稚園教諭（保育士）子育て経験者が多くいるため子育て支援事業の充実をはかります。 ・大学生などによる学習支援をお願いします。 ・国際ロータリークラブには、資金援助や人材派遣、運営アドバイス等をしていただきます。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	今回の整備により、これまで積み上げてきた活動の場が広がり、より安心して住みやすい地域に発展出来ると思います。それぞれの家の中では完結出来ない活動がこの場所にてんこもりになる事により、「頼れる実家」のような位置づけにしたいです。キッチン改修による食事提供、居室改修による子育て支援事業の充実、各種講習会の開催などにより地域人材の発掘につなげ、それにより多くの担い手を生み出せるように努力します。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地建物所有者	地域の為に有効活用してください。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報含まれていません。

位置図

神奈川県松見町3丁目



現況写真

正面から



キッチン



前方側面から



プレイルーム



後方側面から



てんこもりのわ

活動項目		現状及び実績	今後の展望
子育てサポート	1 子育て支援	保育士及び地域ボランティアが対応	スタッフ増員、開催日時増、受け入れ人数増
	2 交流、居場所、遊び	紙芝居、プール、工作、外遊び、手遊び	外足洗い場、シャワールーム、子供用トイレの新設
	3 イベント	クリスマス、カレーパーティー、バザー、七夕、秋祭り	季節ごとのイベントの充実
	4 物々交換	不用品持ち寄り(衣類、おもちゃ)	棚を整備し見やすく、利用しやすくする
	5 子育て相談	子育て支援員、保育士、民生児童委員が対応	個室の用意
	6 不登校児、障害児対応	関係機関との情報共有、連携	要保護児童対策地域協議会への参加
	7 学習支援、宿題、工作	神奈川大学生、地域ボランティアが対応	学習室、机等の用意、学生ボランティア増員
	8 お茶、おやつ提供	お寺やおやつクラブ、フードバンクより提供	おやつ提供先拡充
	9 食事	弁当持ち寄り	カフェ開設によるランチ提供
地域あいふ	1 交流、居場所	折り紙、籠編み、編み物、ハーバリウム、ビーズ	個室を用意し、麻雀、読書、映画鑑賞
	2 イベント	クリスマス、カレーパーティー、バザー、七夕、秋祭り	お月見など季節の行事、大人向け朗読会
	3 高齢者見守り	地域ケアプラザによる見守りキーホルダー	フレイル講座、ライフデザインノート講習会等
	4 相談、話し相手	民生委員、地域ボランティア、各関係機関と情報共有、連携	地域ケア会議
	5 お茶、おやつ提供	お寺やおやつクラブ、フードバンク	おやつ提供者拡充
	6 食事		カフェ、ランチ提供
建物の活用	1 部屋の貸し出し	ピアノ教室	間取りの改修により、各種教室の開催
	2 棚貸し		手作り品販売
	3 防災拠点としての役割	防災拠点になっている小学校には行きにくい立地にあるため	備蓄庫設置、防災訓練、講習会、ちよこっと避難場所
	4 第二の町内会館としての役割	町内会館には行きにくい立地にあるため情報交換の場	情報交換の場、貸し会議室
	5 野菜販売	秋まつり開催時、かなっばにより野菜販売	不定期開催
	6 キッチン利用		カフェ、ランチ提供、弁当配達サービス、食育活動

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	あったかい弘明寺まちづくり実行委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	様々な課題を抱える青少年への就業に向けた体験活動 福祉事業所内における障がいを持つ方への支援活動
提案場所	南区 弘明寺町
提案名 (25字以内)	みんなで創ろう！あったかい弘明寺まちプロジェクト
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	<ul style="list-style-type: none"> ・B型就労支援事業所の開設（平日9時～14時） ・地域における老若男女が、地域住民との触れ合いの中で自立に向けた活動をする施設 ・障がいを持つ方や地域の老若男女が気軽に交流できる拠点となる施設の建設 ・トイレ男女、システムキッチン、天吊りプロジェクター、天吊りスクリーン、壁固定テレビ、壁固定ゲーム機、収納式テーブル、棚、本棚、ロッカー、ウォークイン冷蔵庫、ウォークイン冷凍庫等の設備のある施設の建設 <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約500万円</p>
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<p>地域にお住まいの障がいを持つ方の自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弘明寺観音や商店街のPR動画作成などSNSを活用したネット広告 ・近隣企業から依頼される軽作業やチラシ、ポスターなどの作成 <p>地域にお住まいの方が老若男女問わず集える憩いの場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫茶室、手芸、絵画、映画鑑賞、スポーツ観戦、eスポーツなど <p>障がいを持つ方と地域住民が交流する場所の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方が主催するパソコン、スマホ教室など <p>街の活性化に繋がる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の美化清掃活動、バザーや防災など地域イベントの企画
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>弘明寺の街は弘明寺観音の門前町として栄え、弘明寺商店街はかつて東洋一の商店街と言われた歴史ある商店街です。</p> <p>しかし時代の流れの中で近隣は空き家が増え、商店街も以前の活気ある商店街ではなくなってしまったように感じられます。</p> <p>弘明寺の街も老若男女を問わず、様々な事情や障がいを抱え生きづらさを感じている市民の皆さまが大勢います。</p>

	その人達が社会参画し、活躍できる場を設け、コロナ過により失いつつあるコミュニケーションを体験できる街を創る必要があります。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	賑わいのある商店街を地域の方々や若者のアイデアで維持、継続、発展させながら、老若男女や障がいの有無に関わらず、明るく健康的な生活環境を実現できる街にしたいと思います。 地域の課題や個人の悩みを積極的に解決していける社会を創造し発信します。 歴史と伝統のある商店街はいつも賑わい、商店街を中心とした町並みには春夏秋冬季節を楽しみ、人々が穏やかな時間を共有する街を創造いたします。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	地元にある不動産会社さんの協力を得ることが出来ました。 不動産業は設備関係に明るく、地元の施工会社さんとも繋がりが深いので、設備工事でも地元業者もご紹介いただく予定です。 サポーターの皆さまには、リサイクルショップでの必要資材の買い出しのお手伝いや、施設の装飾、簡単な工事のお手伝いをさせていただき予定しております。 今後サポーターの皆さま増やし、弘明寺地域の住民一体となる活動となるように取り組んで参る所存です。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	地元の定時制高校の支援を得ることが出来ました。 その学校は弘明寺地域や弘明寺商店街で様々な活動を行っており、学校や生徒さんの企画による防災や防犯など地域イベントのコラボ開催が可能となります。 地域イベントだけでなく、生徒さん達には本事業に積極的に参加をしていただいて、未来を担う若者のエネルギーや発信力が、地域の発展やあったかい街づくりの大いなる力となることを期待しています。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	今回の事業の協力者にフルーツを取り扱う事業所があります。 そちらの支援で神奈川県産のみかんやいちご、横浜産の梨や葡萄を扱った活動が出来るようになります。 そちらのフルーツを加工して弘明寺の名物を開発したり、フルーツをバザーの目玉商品にしたり、地産地消のアピールをしたりとフルーツをテーマとした様々な活動が可能になります。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

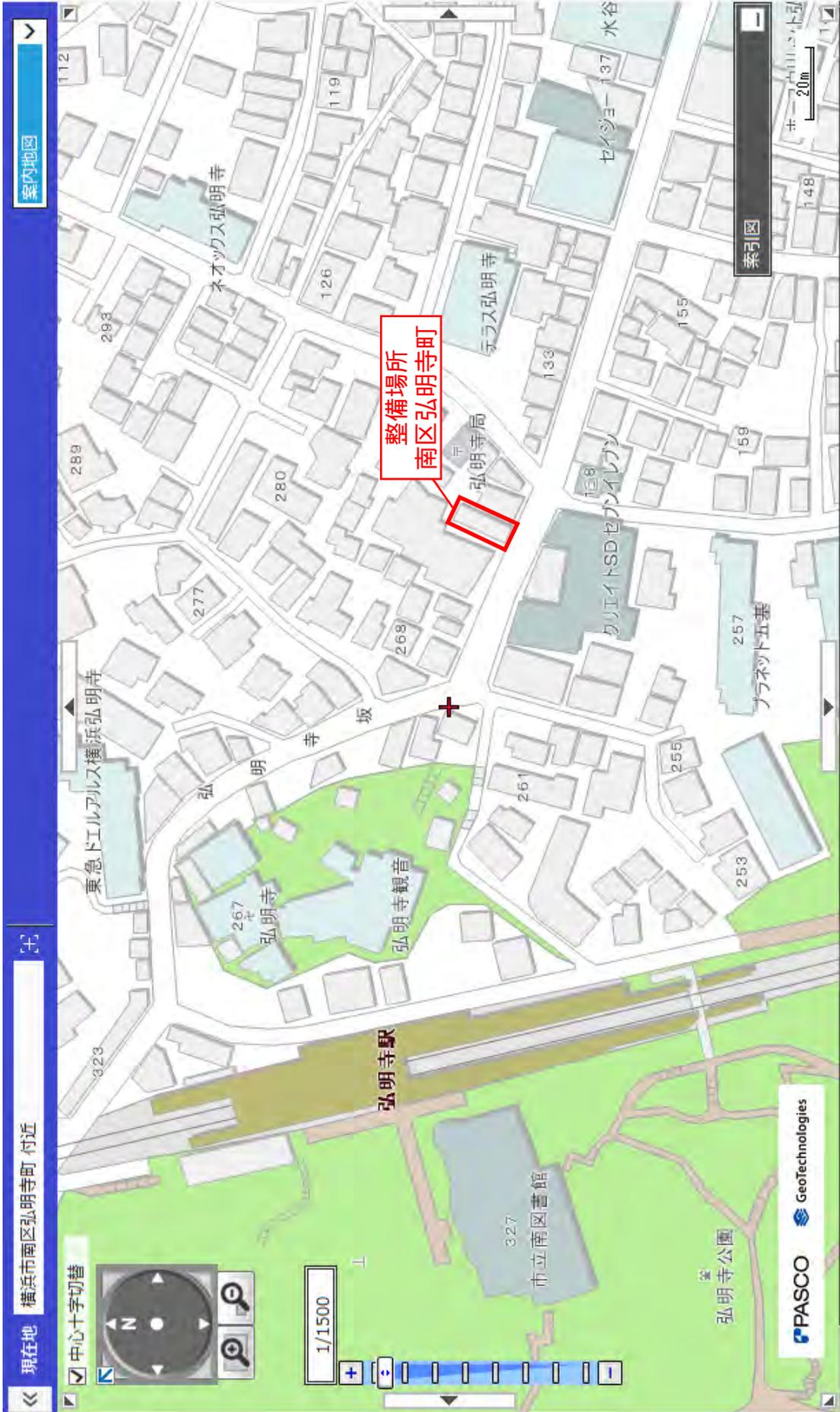
- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
親和不動産株式会社 本物件の実質的な権利所有者さんで地権者さんの承認も得ています。	就労支援事業所及び市民コミュニティースペースとしての使用可能

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報が含まれていません。

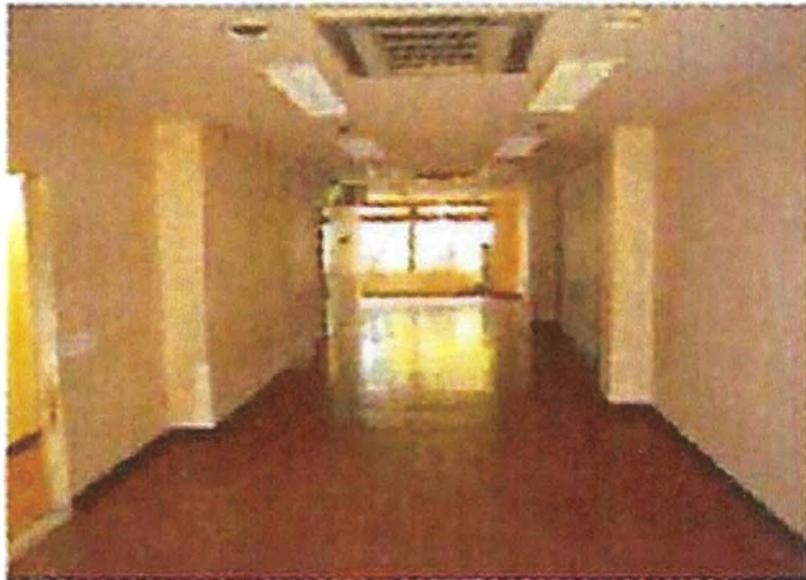


位置図

現況写真



外観



内観

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	えだきん夢叶きゃらばん運営事務局
現在の主な活動内容・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 商店街活性化の為に→えだきんぎょ（マスコットキャラクター）制作歌とダンスチームによるPR活動。地域のお祭りなど年間20回以上出演。 ② 地域の人材（地域資源）活用の為に→ミュージカル制作・健康体操・ヨガ教室実施。地域情報誌（えだまが）を発行し、商店街近隣へ配布。 ③ 地域で助け合う仕組みの為に→地域デジタル支援を推進。シニアのスマホ講座・地域課題解決隊（地域食堂・まち記者・認知症見守りアプリ普及活動）
提案場所	都筑区 荏田南5丁目（えだきん商店街）
提案名 (25字以内)	出会い体験学び処パリスト@ぱんじーの秘密のパン工場
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<ul style="list-style-type: none"> ① パン屋さん（パリジェンヌ）テラスを改築→青空セルフカフェ・イベントスペース・ステージ ② パン屋（パリジェンヌ）倉庫を改築→情報発信基地・未来テレビスタジオ ③ 商店街にアートを→シャッターアートとモニュメントを制作し新名所に。 整備費用の概算額：約 500 万円
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<ul style="list-style-type: none"> ① 誰でも使えるセルフサービスの青空テラスカフェを整備。「えだきんぎょ」ヒーローショーや「地域の発表の場」等ステージイベントの開催。 ② 商店街や地域の人によるイベント情報や紹介動画等の生配信。ITを活用することでバーチャルの世界にも触れられるイベントの実施。 （リアルとバーチャル両者の交流・訪れた人がバーチャル体験やデジタル機器に触れる場となるコミュニティ整備） ③ 商店街はかねてより花の名所であるが、シャッターアートとえだきんモニュメントを制作することで、花とアートの融合した新名所にする。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域活動の多くは活動内容やその魅力発信がうまく出来ず参加者の減少、活動場所や費用の捻出ができない等、地域資源がうまく循環できず「活動継続が難しい」課題を抱えている。 ② 都筑区内最古の「えだきん商店街」は、新規店舗が定着しづらく加入店舗数も20店舗と少なく、シャッターが閉まったままの店舗も増えているが、立地的には、近隣に4団地があり商店街まで遊歩道で繋がっているので、子育てにも高齢者にも安心して利用できるのが好立地ともいえる。 ③ 商店街の中央に位置するパン屋は、放課後の子どもたちや親子で賑わい三世代に渡り愛されている。情報発信拠点を作ることで、人の交流・商店街・地域活性化に繋がる。集まった情報やニーズを更に発信する事で地域資源が循環し、より良い街づくり、地域課題解決に繋げる。 これからの商店街に求められるのは、地域のプラットフォーム（サードプレイス）となる場である。異なるものを分け隔てることなく融合させ「リアルとバーチャル」「花とアート」等地域のプラットフォームを目指す。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたい）	<ul style="list-style-type: none"> ① まち基金：地域資源（人・金・物・情報）が循環する仕組みに貢献 ② 情報発信基地は、ITやバーチャル世界に触れる場 ◆デジタル化に取り残されがちな高齢者に、デジタル機器の普及支援、スマホ教室など継続開催。ミライの介護を想定したスマート化などの情報も

と考えますか)	<p>発信しデジタル機器への抵抗を軽減する。</p> <p>◆教育格差(引きこもり、不登校)解消の場合や、多世代のサードプレイス(就業、学習、人生)となる場、リアルとバーチャル両方の居場所子どもも大人も一緒にリアルの場でコミュニティ拠点を創り育てる。バーチャル空間では、何度でも挑戦できる場を創ることで社会生活にも好循環</p> <p>② 商店会活性化の新たな形 安心して住み続けられる街づくり拠点を担うこと。今までの物の売買を超えた地域のつながりを強化することで、地域ぐるみで地域課題に取り組み地域丸ごと自分ごとで捉える優しい街づくりの実現こそ商店街のミライ。</p>
整備時の協働(つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)	<p>① 「えだきん友の会(えだとも)」メンバー 近隣に毎月4000部配布している地域情報誌(えだマガ)で募集したメンバー。得意分野に分かれ、整備時の設計、資材搬入、連絡係などそれぞれ協力体制を作る</p> <p>② 近隣住民、学童、他団体からのボランティア 商店街の各商店と地域住民。実行部隊として、学童や横浜市一時預かり事業の利用親子。他団体から、整備に関わる事例や情報、企業から、整備資金の支援を受ける。協働先団体に、建築設計・まちづくりの専門家がいるため、整備を進める中で、随時助言・支援が受ける。</p>
運営時の協働(運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)	<p>① 「えだきん友の会(えだとも)」メンバー 各種イベントや祭りを企画開催「商店街のコミュニティ」を担っていく。</p> <p>② スマホ講座参加のシニア 地域のデジタル化を広げる時に主となるメンバーであり、老後の生活負担軽減を考え「ずっと暮らし続けるまちづくり」を協働。未参加のシニア層に向けた情報発信、口コミでの参加が増えている。</p> <p>③ 近隣農家、食ロスや廃棄課題を抱えた店主や地域住民、商店街各店「地域での食品ロスを循環していく地産地消」や「廃棄課題を解決するエコステーション」を協働開発、運営。</p>
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<p>① 地域には、たくさんのスキルや経験を持った人がいるが活用できてない現状がある。また目的のために使われたい資金が行き場を探している場合も見受けられる。</p> <p>② 自分の住む地域に「地域資源」があることを知り、それらを繋ぐことができれば、人も地域も潤っていくのではないか。きっかけを提供するのが「青空セルフカフェ」「情報発信スタジオ」「アートdeモニュメント」。そして、バーチャル体験や空間も合わせた、多世代がリアルとバーチャルで交流できるサードプレイスの実装。</p> <p>③ 体験や多世代交流から、好きなもの・夢中になれるものに出会う機会を提供することで、新たな価値を創出。年齢問わずICTへの理解を深めるきっかけとなり、地域資源を繋ぐことで必要な人へ必要な資源を届けるハブとなる拠点を整備し、誰もが笑って過ごせるまちづくりに寄与する。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地建物所有者	昨年から説明をしていました 立ち退くときに原状回復してくれれば特に問題ありませんとのことでした

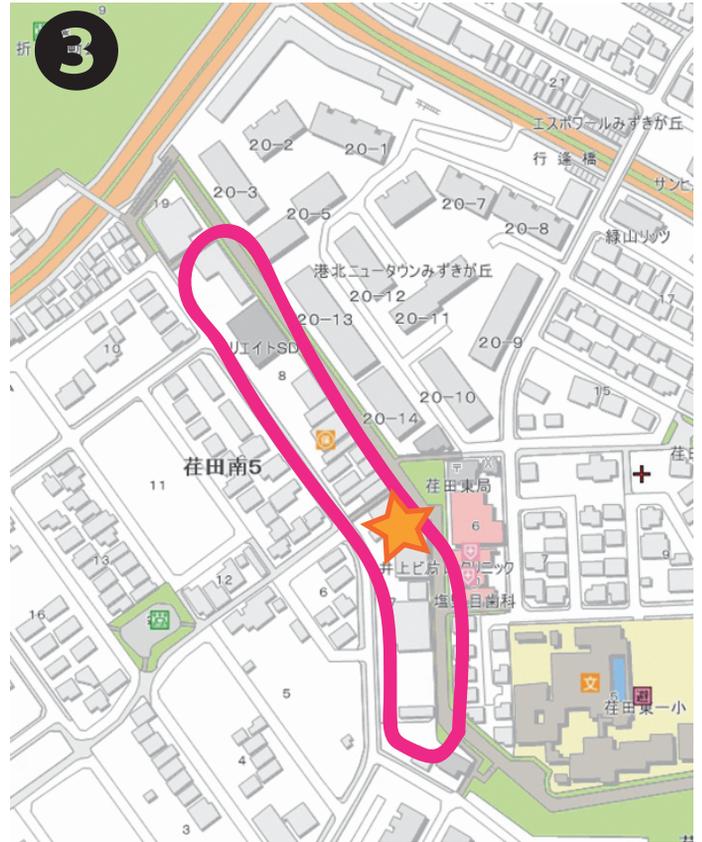
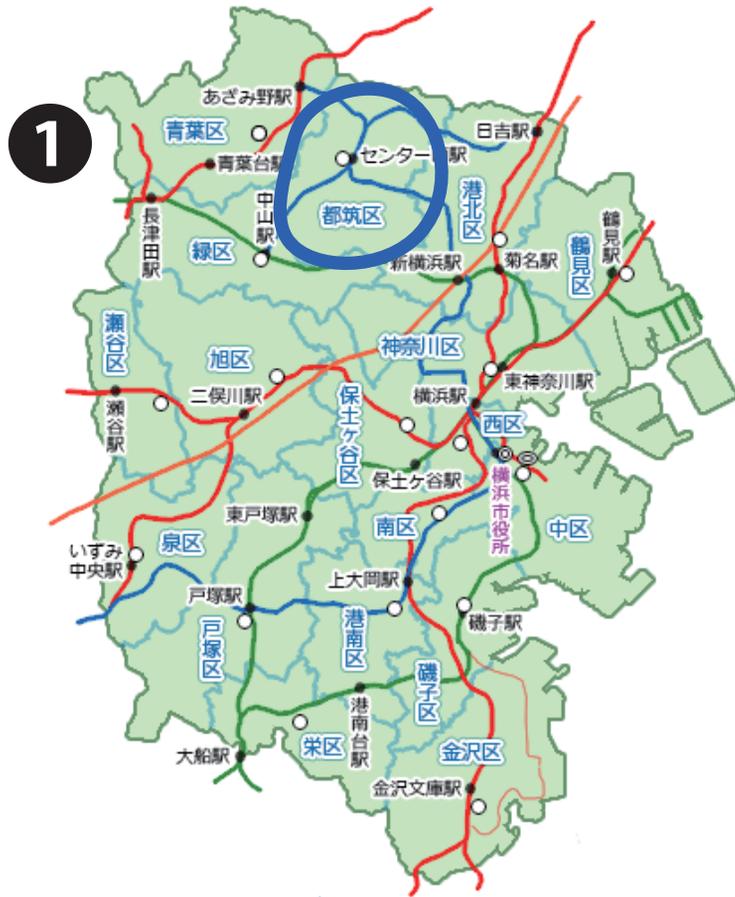
注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

えだきん商店街の位置図

- ①「都筑区」は、横浜 18 区の中の北部に位置し、「青葉区」「緑区」「港北区」に隣接する
- ②「センター南駅」から、遊歩道を通り、徒歩約 20 分程の場所にある
(都筑ふれあいの丘駅から、徒歩約 18 分。江田駅から、徒歩約 23 分)
- ③「えだきん商店街」は、遊歩道に繋がるレンガ道で、四季折々の花が彩る都筑区最古の商店街





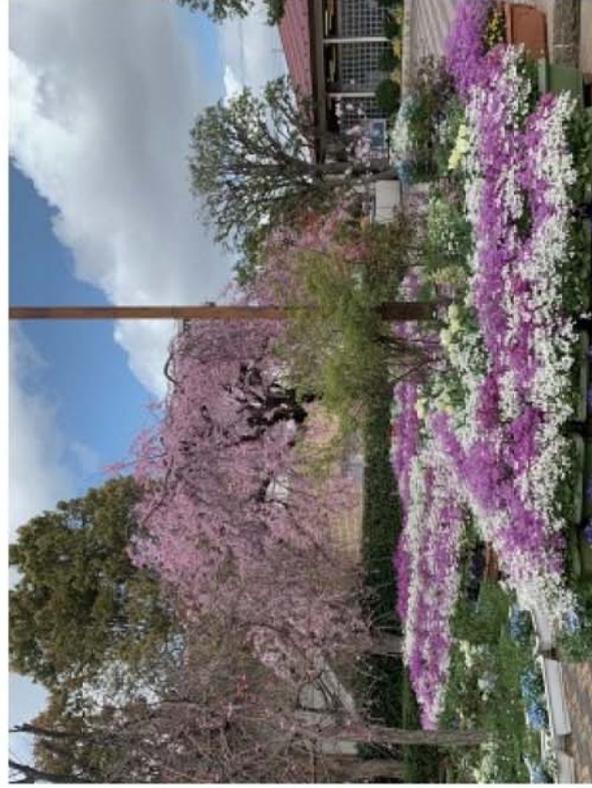
店舗前：遊歩道に繋がるレンガ道



店舗前：改修予定のテラス



倉庫：スタジオ

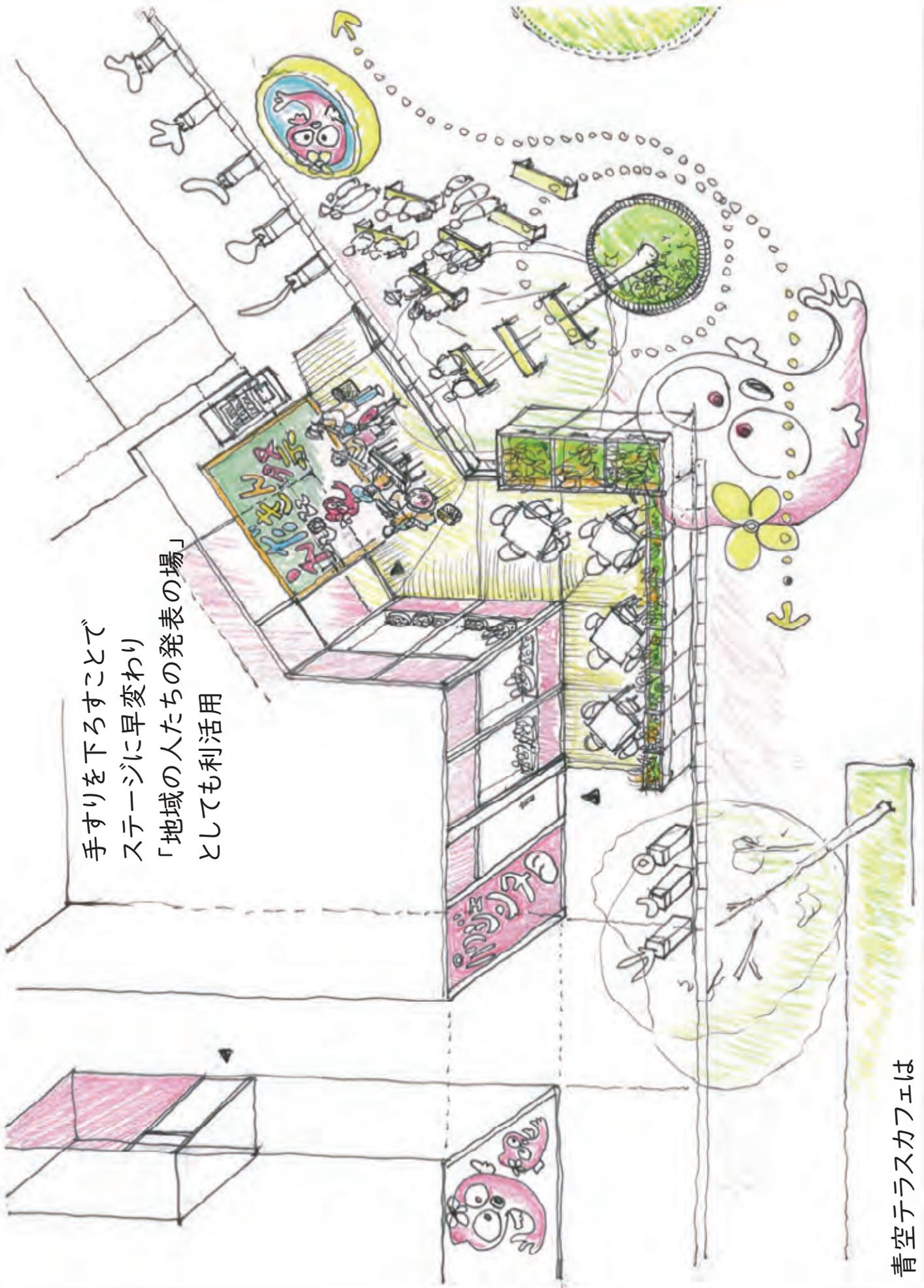


えだきん名物：しだれ桜とサクランウ
※さくらそうは、都筑区の花



テラスからの風景は緑豊か

↑ 情報発信基地 (ガラスなので配信風景も見学できる)



手すりを下ろすことで
ステージに早変わり
「地域の発表の場」
としても利活用

青空テラスカフェは

誰でもふらりと立ち寄り自由に交流できる。
毎月ミニ講座や催し物を開催し、地域情報発信。

モニUMENTやシャッターアートで
花の彩りと相まって、えだきんの新名所に。

◆5カ年計画と地域インパクト

1年目 2022年 対話と調査

- 5月：まち普請補助金申請
- 6月：近隣へ協力者募る・活動理解のための周知活動
- 7月：公開プレゼン

～3月：地域資源の把握のための聞き取り

29 自治会、5ヶアプラ、区民活動センターの登録団体 200 へのヒアリング
イベント開催時の音や周辺治安などへの理解を得るための説明会

※1年目のインパクト：近隣への理解周知活動と地域資源のヒアリング調査

2年目 2023年 ハードの稼働

- 4月：解体工事・テラス・スタジオ改築開始、シャッターアート&モニUMENT案募集
- 7月：アート案投票結果、表彰式・優秀賞のモニUMENTを制作開始
- 8月：①青空カフェ&ステージ
②スタジオオープン
③シャッターアート&モニUMENT公開
④バーチャル空間の公開

夜店市にてステージイベント初開催・情報発信スタジオにて情報発信

毎月、番組表・イベント表を地域に配布。

番組表及びイベント表は、当面無償配布する（有償配布へ）

※2年目のインパクト：「集い」「情報発信」「発表」「バーチャル」4つの場作りと運営

3年目 2024年 ソフト展開

4月：リアルとバーチャルを融合したイベント開催。多世代のサードプレイスとして展開

5月：まちの資源循環の仕組み「まち基金」の整備・実装へ

えだきんで夢を叶える！大人も子どももミニマムな組織（会社）作りができるプラットフォームを整え始動する

※3年目のインパクト：サードプレイス&プラットフォーム作り

4年目 2025年 体験と普及

地域へのアプリ導入・買い物弱者へのフォロー
デジタル機器・アプリの体験普及活動を重視

29 自治会、5ヶアプラ、区民活動センター登録団体 200
との協働。体験と普及活動へ

※4年目のインパクト：サードプレイス&プラットフォーム運用

5年目 2026年 ずっと住み続けたいまちへ

商店街を拠点にまちづくりを。新しい商店街のあり方を考え続ける
えだきん商店会から、他商店会への協働、展開
ずっと住み続けたい街「えだきん」➡「都筑区」「横浜」へ

※5年目のインパクト：

小さな影響の輪を、波紋を、他の地域にも広げる。継続と展開

商店街は、
地域資源が循環し、夢を叶える場
プラットフォーム・サードプレイスとなる

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	まちまど・洋光台シェアベース実行委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	まちまど-洋光台 まちの窓口-を2019年5月に設立。地域の窓口として地域情報発信・相談受付・活動の連携を2年間役割として担ってきたが、地域の方が一歩踏み出す場所や横の繋がりに課題を感じていた。そこで住民が2021年4月に立ち上げた「まちのしかけ部」と協働でコミュニティマルシェ「ことはじめ市」(過去5回開催)や集まったメンバーと語り合う「おしゃべり会」(過去3回開催)を実施。そこで出会ったメンバーと地域で集いチャレンジする場を作ろうという思いが持ち上がりシェアベース実行委員会の立ち上げに至った。
提案場所	磯子区 洋光台3丁目
提案名 (25字以内)	「食」をきっかけとしたシェア空間の立ち上げ
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	<p>洋光台駅徒歩2分の洋光台中央団地商店街に、シェア空間を整備。「食」をキーワードとして、以下の①～③を目指した以下の施設を整備する。</p> <p>【目指すイメージ】</p> <p>①訪れる方が主役となることができる②新たな繋がりが生まれ、さらなる活動の連鎖を生む③まちのハブとなり得る</p> <p>【整備機能】</p> <p>オールインクルーシブシェア施設「シェアベース」 (菓子製造業・飲食店営業 許可取得) シェアキッチン・シェアカフェ・シェアスペース・ タイムシェア・ライフシェア</p> <p>【主な整備内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッチン・エアコン・手洗い等設備工事 ・内装工事 <p style="text-align: right;"><u>整備費用の概算額：約 500万円</u></p>
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<p>整備場所は2階建ての物件。キッチンのある活動スペースを1・2階に1箇所ずつ整備し、以下の方法で活用を行う。</p> <p>【1階：菓子製造業許可取得キッチン+カフェスペース】 活用イメージ：日替わりカフェ営業・菓子販売・菓子の仕込み</p> <p>【2階：飲食店営業許可取得キッチン+スペース】 活用イメージ：料理教室・日替わりレストラン営業・サークルの交流会 上記の利用者と共に、「ことはじめ市」に続く焼き菓子中心のマルシェや、地域の方々の「やりたいことプレゼンテーション」などの交流イベント企画を行うとともに、洋光台内外へ活動の情報を口コミやweb媒体等で発信する。</p>
提案の背景(なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に)	洋光台は古くて新しいまち。住宅開発される前から住んでいる人と新しく住み始めた人がいる。そのため、根岸や杉田地区のような昔から受け継がれてきたお祭りなども少なく、地区センター、図書館などもないため、なかなか人の交流がされにくい。しかし、洋光台は元々新しいものや人を受け入れながら、つかず離れず自分たちの生活を営める稀有な地域だった。

触れて説明してください)	<p>そんな洋光台も、近年では徐々に高齢者の比率が増えてきており、銀行等の縮小や駅の窓口縮小などが行われ、住民の中には、社会から遠ざかっているような感覚も生まれつつあるとともに地域の担い手不足も叫ばれて久しい。担い手がいないわけではない。住民による”活動”は数多くある。個々で様々な活動が立ち上がり、そして年齢が進むとともに消えていく。これを30年近く繰り返していることが課題なのである。この「個々」が繋がることができているならば、今の洋光台はもっと違っていたのではないかと。</p> <p>前述の背景により、「個々」の繋がりを「食べる」という老若男女、国籍問わずに共通する「食」をきっかけとして、みんながみんなの応援団となり、住んでいる人も来てくれる人も楽しく過ごせるまちにしていきたいと思い、今回の提案に至った。</p>
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたと考えますか）	<p>今回整備する「シェアベース」に限らず、洋光台にある他の地域資源の方々と協働して以下の将来像を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のまちが好きながたくさんいる（シビックプライドを高める） ・新旧住民が交わることができる ・挨拶や声掛けが日常の中で行き交う
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<p>「ヒト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民支援・料理教室運営・建築設計等を専門にしているシェアベース実行委員会メンバーと協働して当計画を推進。 ・DIYに長けた住民（自店舗を自ら施工した経験が複数回ある）に協力を得て、地域住民を巻き込んだ施工ワークショップを実施。 <p>「モノ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の工務店に資材提供を打診。 <p>「オカネ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングによる資金調達を検討。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<p>「ヒト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会メンバーによる地域交流企画や各種講座の実施。 ・洋光台地域ケアプラザ、周辺地域団体等の地域連携を行う団体と協働した利用者交流・活動支援の実施。 ・シェアベース利用者のほか、周辺店舗や「ことはじめ市」等の参加者と協働したマルシェ・ワークショップ企画の実施。 <p>「オカネ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェアベースの利用料を収益源として運営。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<p>まちまど-洋光台 まちの窓口-は洋光台エリア会議により設立され、UR都市機構・横浜市の支援にて運営中。現在は任意団体であるが、来年度からUR都市機構・横浜市の手を離れる予定である。ヨコハマ市民まち普請事業への応募を、法人化し住民組織として運営を行うための糸口としたい。</p>

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

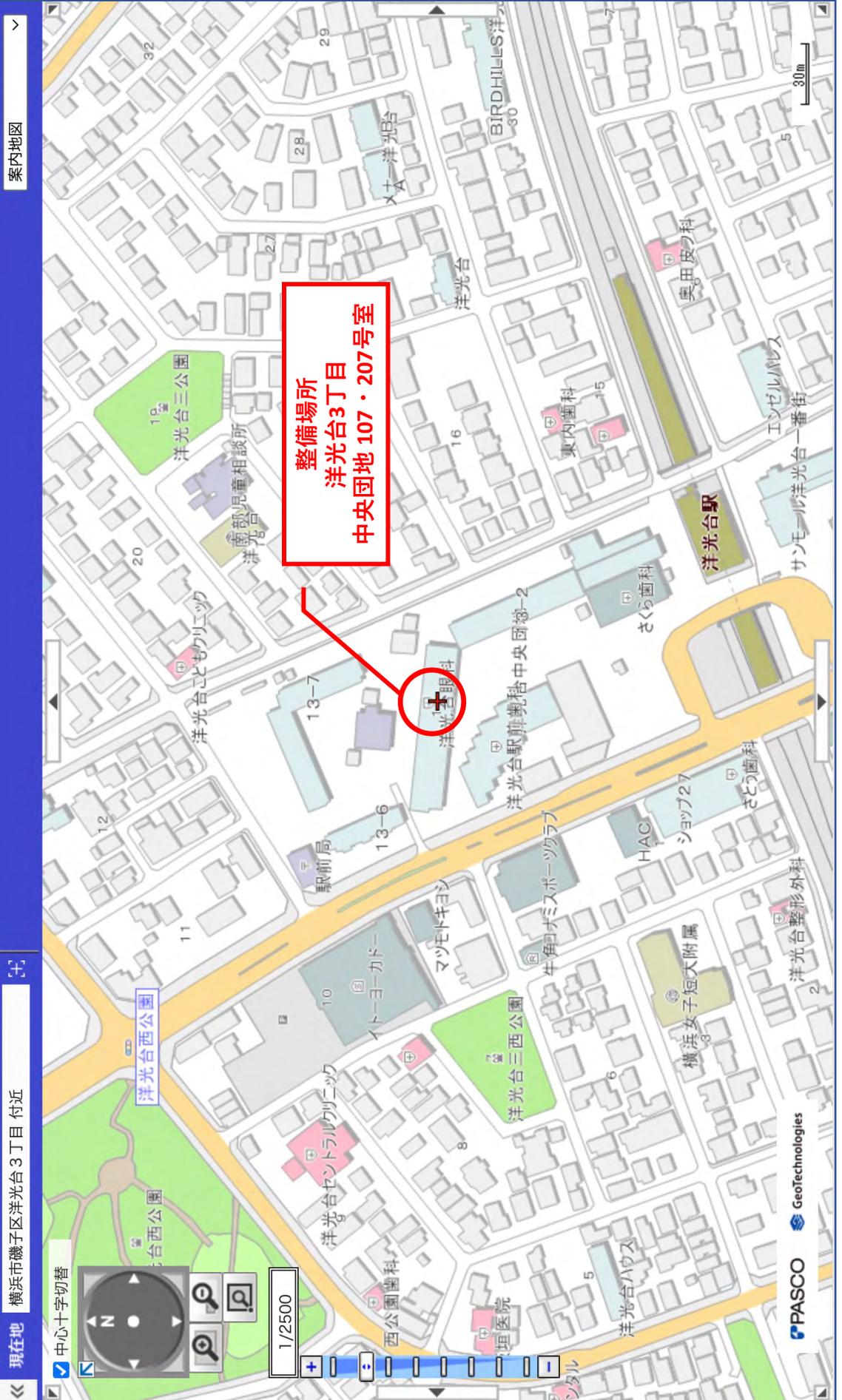
整備場所の地権者等注5) への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
UR都市機構	整備場所の使用については問題ないが、整備にあたり法令上の確認・整理が必要。本申請時点では倉庫として暫定利用中であり、現状引き合いはない。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

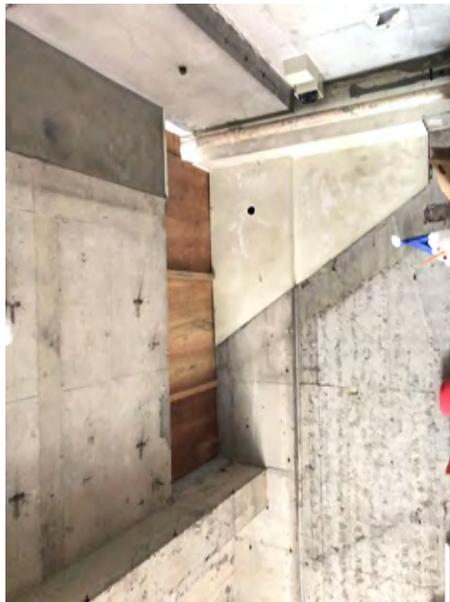
- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図



現況写真

<1階>



<2階>

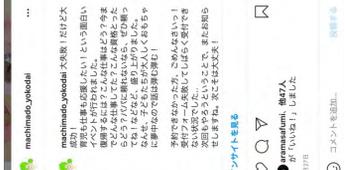


これまでの活動

地域情報の発信・活動支援



地域活動紹介・相談受付・SNSでの発信



まちまどinstagram : https://www.instagram.com/machinada_yokodai/

参加の場づくり

まちのしかけ部との共催

個人同士が”やってみよう”
について語り合う場
「まちのしかけ部おしゃべり会」



人とモノと場所が出会う
きっかけづくり

「コミュニティマルシェ ことはじめ市」



まちのしかけ部活動記録 : <https://machikake-yokodai.localinfo.jp/>

ことはじめ市 : <https://kotohajime-ichi.crayonsite.info/>

地域活動への参加・交流



地域団体との協働企画

「食と音の小さなフェスティバル」
実行委員会事務局運営



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	マチヲフルサトニ・トリヤマノスタルジアプロジェクト 町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト
現在の主な活動 内容・活動実績	居場所づくり活動鳥山町の高齢者の居場所を模索するなか「鳥山町居場所づくりプロジェクト」として前身が発足。「とりやまの郷」を立ち上げ、運営は地域活動をしていた居場所づくり濱なかまが中心に行い、その経過報告などを踏まえ鳥山町の居場所づくりについて話し合いを続けてきた。独自拠点をもたず、地域資源（高齢者施設・地域カフェ）で活動をつづけるなかで、行政・事業者・地域団体との連携をつくり、地域全体で居場所づくりに取り組む体制を固めてきた。
提案場所	港北区 鳥山町
提案名 (25字以内)	トリヤマノスタルジアケイカク・マチノアイチャクウムイバシヨヲツクル 鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	2021年地域に唯一あったコーヒーの飲める場所であるカフェが閉店。このカフェを利用した地域交流が続けられなくなった。この施設を再開発し、子どもも大人も障害のある人も、安心安全に過ごせる場所を作る。 なお、カフェ設立時に天井をとるガラス張りテラスを作ることで、室温コントロールが難しい建物となっている。運営後のランニングコストを考慮し、エコロジ的な建築方法を活用し、地球環境保全への情報発信を行える施設とする。 将来的には生活・福祉ステーション（地域ホスピス）の拠点機能をもたせるため、集いの場で音楽活動ができる施設としていく。地域活動情報が循環するしくみも組み込む ① スロープやだれもが使いやすいトイレ設置 ② 自然素材で室温コントロールができる内装 ③ 演奏会のできるサロン ④ 地域の掲示板 整備費用の概算額：約 500万円
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	① 高齢者介護予防事業「とりやまの郷」 ② 地域交流イベント：地域の音楽家などのライブ ③ DIYや庭造りなど体験の場 ④ 生活・福祉の相談支援ステーション（福祉・医療・起業・心理・子育て） ⑤ 食・職の学びの場（ママやシニアの働き場の創生） →カフェ、広告事業、Web運営など ⑥ レンタルスペース
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	活動の中心となる濱なかまは2014年の活動スタートの段階から独自拠点をもたずに活動を続けてきた。これまでさまざまな地域資源（高齢者施設やカフェ）を活用しながら、コロナによってそれらの地域資源に入館できないという事態が訪れた。町内会館が坂の上にあるこの地域は、高齢者にとって集まることが難しい地域ともいえる。またこの地域はお茶を飲む店がないのも特徴で、ちょっとしたコミュニケーションをとれる場がアクセスの良い場所がないことが大

い)	きな課題である。福祉・事業者・地域団体がすでに同じ方向をみているこの地域で、足りない物をいっしょに作る経験を得ることで、新しい地域の関係性が生まれると確信する。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	農家が多いこの地域は、古い住人の世襲的な色もあり新しい住民が町内会活動に入りづらい側面がある。町内会でも事業者でも行政でもない団体が主体となり、町のものと一緒に作ることで、地域への新しい参加の仕方が創生される。居場所づくり活動の中心を担う濱なかまは、地域ホスピスをめざす団体である。地域のなかで最期まで自分らしく生活をする、愛する人を愛する地域で見送るために必要な、地域としての機能（傾聴、生活の場、医療、音楽、ボランティア、介護、相談）などが拠点から地域へ発信され循環する地域となる
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	これまでの活動でつながった以下の団体とともに、地域の人に参加できる整備活動を推進したい ① 都筑区KILTA（DIYを使ったコミュニティづくり） ② Co-coya（2021年まち普請採択プロジェクト実施者） ③ 居場所づくり濱なかまメンバー一級建築士
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	地域の子育て支援団体、民生委員・児童委員、そのほか町内会など、すでにさまざまな活動で連携しており、団体の責任者とは拠点運用についても話し合いがはじまっている。別途動いている城郷地域の情報メディアの活用を通して、団体間の垣根を超える経験を積んでいき、メディアも拠点も、城郷の共有資源という意識作りを行って、運用メンバーも募っていきたい
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	このプロジェクトは、城郷の地域福祉保健計画（ひっとぷらん）にもとりあげられる提案です。これまで濱なかまが中心に行っていた活動に対し、ボランティア連絡会など地域の交流の場で意見の交換やそれぞれの活動の場での連携経験を通じて、理解と信頼を得てこの場に進んでこられているのだと思います。 いま、町内会の役員が、地域パトロールの後に濱なかまの「とりやまの郷」でコーヒーを飲み、地域のこと、家族のことを語る時間をもてるようになりました。毎日こんな会話がもてる場が、鳥山町にあったなら・・・そんな話を真剣にきいていただける関係性が、いま地域のなかで生まれています。 何をやるか・・・よりも、この関係性でどこまでできるかにチャレンジしたい！そんな思いでいっぱいです。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

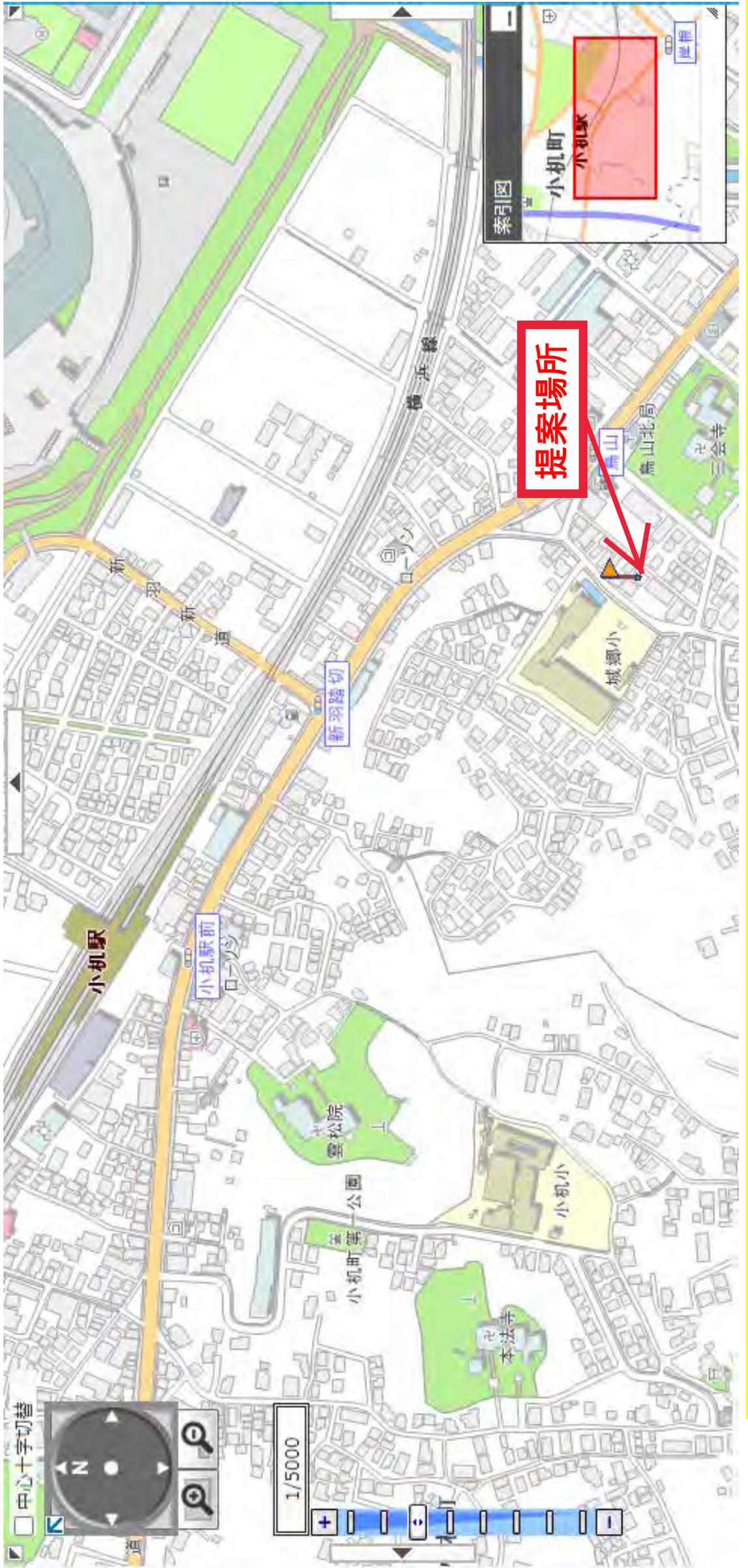
整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
ボンラヴィ跡地のオーナー様	現在は倉庫として活用してもらえたら話し合いは継続したい

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置图



現況写真

(現況地主様が遠方のため中に入れなためカフェ営業時の写真です)



テラス部分

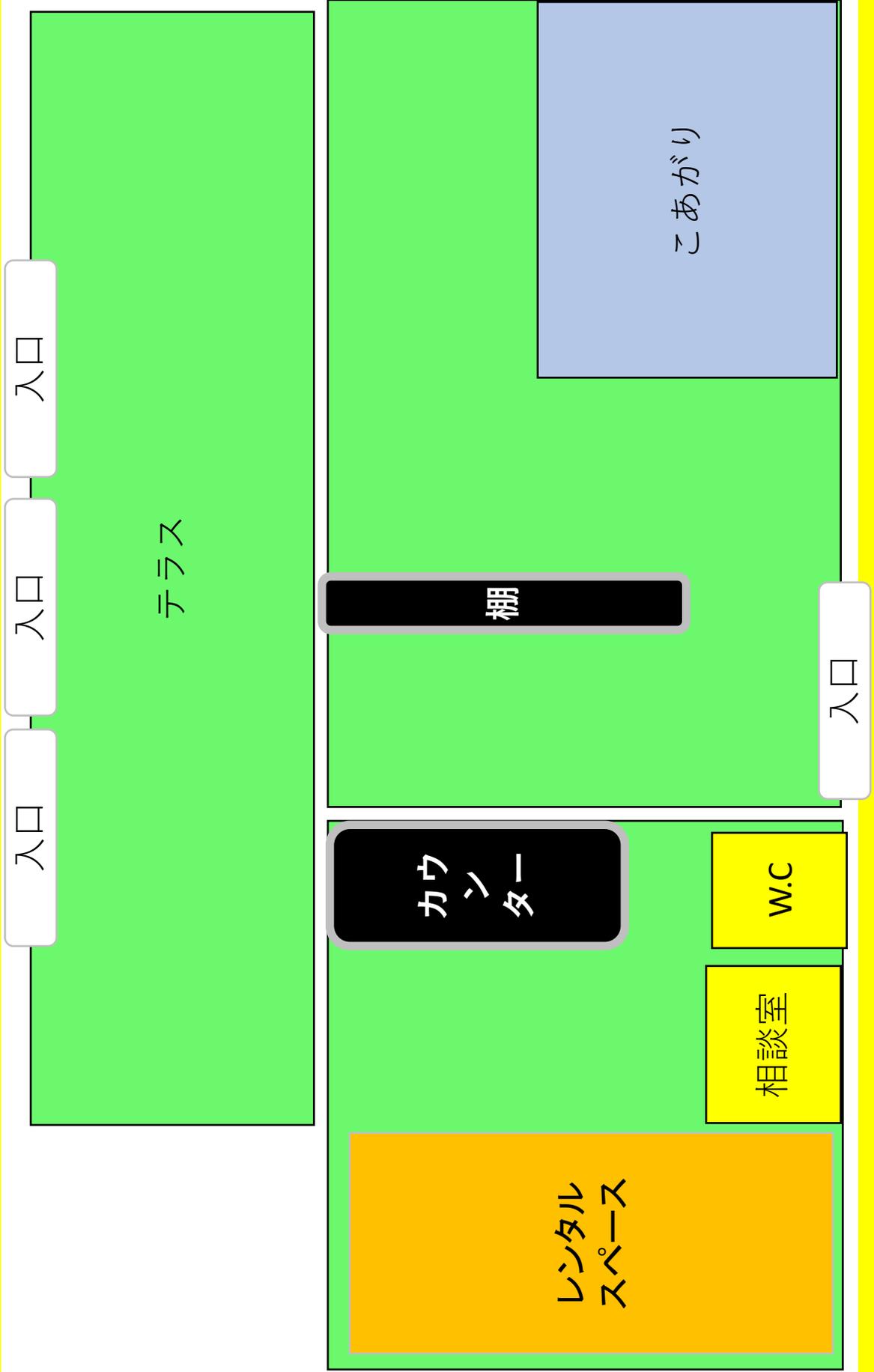


入口アプローチ



テラスより内側の部分

活用イメージ



わたしたち濱なかまは、

心のコリに効く ほど良い OSEKKAI

をしつづけて
理想の社会を目指します。

わたしたち濱なかまは、

濱なかまは

- ▶ 城郷の町が「暮らしたい町」となるために町に“愛着”と“利便性”を得られる場所と機会を提供します。
- ▶ 城郷の町が、日常も最期のときも豊かに暮らし続けられる町となるためにさまざまな専門的支援を提供（連携）します。
- ▶ 「暮らしたい町」でありつづけるために持続可能な運営のしくみを確立します。
- ▶ 濱なかまの活動を支える人すべての夢としあわせを実現する場となります。

独自拠点の設置

居場所の創生

公式ローカルメ
ディア設置

福祉／生活支援
ステーション開設

在宅ホスピス

IT／DX化

事業化

人材発掘・育成

愛される日常と
愛されつづける最期を
生きる社会を

の実現を
目指します。

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？

市民が身近なまちづくりに取り組むときに役立つ制度や用語、地域のまちづくり活動の紹介、地域まちづくりに関するイベントや講座等に関するお知らせなどを提供する、無料のメールマガジンを読みませんか？ 配信申し込みは、下記の2次元コードからお願いします。



ヨコハマ人・まち
メルマガ案内

ヨコハマ人・まち

検索



地域まちづくり課 “公認” のFacebook

「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね！」を宜しくお願いします。

(Facebookは協働事務局の横浜市住宅供給公社が運営しています)

まち普請ひろば

検索

身近なまちの課題を解決したい、あるいは魅力を高めたいと考えている方や、身近なまちの施設等の整備アイデアをお持ちの方は、年間を通じていつでも相談窓口を開設していますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【相談・お問い合わせ先】

横浜市都市整備局地域まちづくり課

(横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎29階)

電話 045-671-2679 E-mail : tb-seibiteian@city.yokohama.jp

まち普請

検索



2027横浜
国際園芸博覧会

